

シズクとぽかぽか温泉旅行に
はむはむぺろぺろされる一日

同人音声サークル『ウラオモテ』

昼の陽気、小鳥のさえずりが窓から聞こえる。

シズクが外から帰ってきて、リビングのドアを開ける。

《◆左斜め前/50cm》

シズクー 「たっだいまーご主人♪ って……寝てる」

シズク、主人公の正面まで歩いて、顔を覗きこむ。

《◆正面/30cm》

シズク₂ 「もう……座ったまま寝たら首痛めるよーって言ってるのに……くす♪ しょうがないなあ」

端のクローゼットまで歩く。

バッグを掛けたり、上着を脱いだり。

《◆右斜め前/50cm》

シズク₃ 「ん、しょ……っと」

シズク₄ 「んー……今日の夜ご飯、どうしよっかなー……」

シズク₅ 「ん……よし」

主人公の正面まで歩く。

膝の上に座り、そっと寝顔をうかがう。

《◆正面/10cm》【「ん」から小声】

シズク₉ 「（一呼吸）……「っしゅじーん」

（左右にゆらゆら）

シズク₇ 「シズクが、帰ってきましたよー」

シズク₈ 「んー」

(もう一度ゆらゆら)

シズク 6 「寝すぎるのは、良くないですよー」

シズク 10 「ん〜」

《◆左耳/003へ移動》

シズク 11 「ご主人♪ お、き、て♪」

ゆっくりと耳を舐める。

シズク 12 「ああー……あむ♪ れえる、れろ……ちゆ」

主人公、ビクつと体を震わせて起きる。

シズク、舐めるのをやめない。

シズク 13 「ん、おっはよ、ご主人♪ はあむっ♪ れえる……れる、れる、れえる♪ んー？ んふふ♪ はむっ♪ れえる、はあ……れる、れる、れえる♪」

シズク 14 「もうダメ？ んー、じゃあおしまい。ちゆっ♪」

シズク 15 「ちよっと待ってて♪」

シズク、バッグから診断書を取り出す。

主人公の横に座って診断書を渡す。

《◆右/30cm》【「」から普通の音量】

シズク 19 「はい、今月の診断結果♪」

主人公、診断書を広げる。

シズク 17 「さつき病院で診てもらったんだけど……ほら「こ」！

『いたって健康』だってー！」

シズク 18 「えへへー♪ 女医さんに褒められちゃったー♪」

シズク 16 「やっぱり、ツナクリームは健康なんだよ♪ 美味しいし、

毎日食べなくても飽きないし、何より、栄養満点♪」

主人公、体重を指さす。

シズク、手で隠す。

シズク 20 「ん？ ああ、体重は見ないで……。いや、その……

ちよっとだけ……。ちよーっとだけ……。前より、増えてる」

シズク 21 「うう……。食べ過ぎは、気を付けます……」

シズク 22 「んそれよりもっ、もっと見てほしいところがあって」

紙を裏返して、あるところを指さす。

シズク 23 「ここ。私が人間でいる時間、あと二週間くらいだって」

シズク 24 「この日までに、またウイルスを活性化させれば、もっと

もっと、人間でいられるってこと」

シズク 25 「うん♪ だから、また時間ができたら……」

シズク、横から抱き着く。

《◆右耳/Ocm》【ここから小声】

シズク 26 「うっばい、交尾しよっ。」

シズク 27 「くす♪ 今更恥ずかしくないですよ。ご主人だって、

私とするの、好きでしょっ。毎日したいくらいうん。」

シズク 28 「んでもね、やりすぎは禁物だって、猫のお姉さんに言わ

れちゃった」

シズク 29 「マンネリ？ っていうのになるんだって。知ってる？

マンネリ……。 (頬ずり) ねりねりい……。くすくす♪」

シズク 30 「そう言われても、甘えなくなるのはしょうがないよ

ねえ」

シズク、主人公の膝をなでる。

シズク 31 「ご主人のお膝はー、私を甘やかすためにあるんだもん」

シズク 32 「ねっ。」

シズク 33 「ご主人、甘えていい？」

シズク 34 「ん、ありがとう♪」

シズク、主人公の膝へ。気持ちよさそうに頬ずり。

《◆正面下/30cmへばたんきゅー》

【ここから普通の音量】

シズク 35 「ふえ〜……ああ〜……えへへ♪ あったかあい♪」

匂いを嗅ぐ。

シズク 36 「ん〜……くんくん……はあ……くんくん、くーん……

はあ〜……落ち着くう」

主人公、シズクの頭を撫でる。

シズク、思わず声が漏れる。

シズク 37 「んっ……あ……え……ご主人？ ん……まだ、頭撫で

てっつて、んう、言っつてないよっ。」

シズク 38 「んん……んっ……ああ……ん……んう〜」

シズク 39 「かわいい？ んへへ……ありがとう」

シズク 40 「はあ……う……んでも……いきなり撫でるのは、だめだ

よお……♪」

心地よさそうな声。

シズク 41 「ん……うう……あ……はああ……あ、そこっ……そこそ

こ……♪ んへ……ん……んう……きもちら……♪」

シズク 42 「ん……ん……んん……はあ……ああ……ん……ん〜♪」

シズク 43 「私も、お返し……♪」

シズク、ベルトを外し、チャックを開けて、中を
まよめる。

シズク 44 「ん、しょ……いひひ、動いちゃだーめ♪ 今日まだ出
てないでしょ？ 任せてよ……ん……ん」

男性器が外に出る。

シズク 45 「（小声）あは、かわいい♪」

シズク、そっと匂いを嗅ぐ。

シズク 46 「んー……くんくん……くんくん……ん？ くんくん……

あ、もしかして、シャワー浴びた？」

シズク 47 「うん、うう匂う♪」

シズク 48 「でも……くんくん……えへへ、ご主人の匂いも、ちやー
んと残ってる♪」

シズク 49 「ねえ、もっとくんくんさせて♪」

シズク 50 「もっと近くで……お鼻をくつつけてー」

間近で匂いを嗅ぐ。なぜか甘い鳴き声が漏れる。

シズク 51 「くんくん……んみゃあ」

シズク 52 「あれ？ 鳴き声出ちゃった」

シズク 53 「ん……くんくん……みゃあ……くんくん……みゃあ〜」

シズク 54 「あはは♪ わざとじゃないよ？ くすっ♪ ほん
とっ♪」

シズク 55 「この匂い嗅ぐとねー……くん……みゃ……くんくん……

みゃあ〜、あはははは♪ 麥なのー♪ くすくす♪」

シズク 56 「ん、ふざけてないもん♪ おちんちんが悪いんだ

よーっ♪」

シズク、いつの間にか夢中になっている様子。

シズク 57 「うん♪ おちんちんが、いい匂いするからっ……はあ、くんくん……みゃーう……」主人の匂い……♪」

シズク 58 「くんくん、くん……みゃあ」

シズク 59 「あへへ……ピクピクしてる」

シズク 60 「おちんちんさん、私に食べられたいのかな」

シズク 61 「くんくん……みゃーう」

シズク 62 「あは、またピクってした♪」

シズク 63 「ん、私も早く啜えたい……匂いだけじゃ、やだよお」

シズク、上目遣いで問いかける。

シズク 64 「はあ……はあ……いーい？」

シズク 65 「うん♪ いただきまーす♪」

シズク、舐を舐めるようにゆったりと男性器の先を舐める。

シズク 66 「はあ……ん……ちゅぶ、れる……ん♪ ちゅぶ……

はあ……れえる、れる……れる……ちゅ」

シズク 67 「ん、おいっ」

シズク 68 「んちゅ……れる、れる……れえろ、れる……ちゅ、

ちゅ……はあ、れえる、れる、れる……ちゅば」

シズク 69 「あれー？ ご主人の手、止まつてるー……ちゅぶ、れる……さつきはご主人から、撫でてくれたのにな……れえる、れる、れる」

主人公、なでなで再開。

シズク 70 「んっ……んへへ……なでなでありがと♪ れえる、ちゅぶ……みゃー、ああむ♪ ちゅぶ、れえる、みゃあっ♪」

-
- シズク 71 「んぶぶ、ご主人に撫でられてると、ちゆぶ、みゃあ♪
あっへへ、鳴き声、我慢出来なあい♪」
- シズク 72 「んみゃあ♪ ああむ♪」
(50秒。時折鳴きながら、ゆったりフェラ)
- シズク 73 「れる、れる……みゃあ、あむ(★50秒)」
- シズク 74 「んあ……そういえば、もうこんな時間……ちゆぶ、ちゆぶ」
- シズク 75 「ねえご主人、ちゆば……夜ご飯、何作ってほしい？
ちゆ……れるれるれる」
- シズク 76 「おまかせ？ 逆に迷っちゃうなあ……あむ、れる、
ちゆ……れる……れるれる……ちゆば」
- シズク 77 「んー……ちゆぶ……あ、ご主人……ちゆぶ、ハンバーグ
好き？ れる、れる……ちゆば」
- シズク 78 「病院で、女医さんと料理の話になってね……ちゆぶ……
ハンバーグは、間違いないって……れる、ちゆぶ」
- シズク 79 「んぶぶ♪ じゃあ、今日はハンバーグ♪ 後でお買い物
しよっ。」
- シズク 80 「はあーむ……あむあむ……れるれる……んー、想像した
ら、お腹空いてきちゃった……あむ……れる、ちゆば」
言う事をそのまま男性器にしていく。
- シズク 81 「今日はー、ご主人といっぱいハンバーグ作って……
ちゆぶ、ちゆつちゆ……ん、ちゆ」
- シズク 82 「お口いっぱい頬張ってー……(頬張る)はあゝ
むっ……ちゆば♪ はあむ、ちゆぶ♪ はむ、はむ、
はあーむ……ちゆば♪」

シズク 83 「舌でいっぱい転がして……れる……れる、れえる……れるれる……れえるれえる……れる、れる……れるれるる……」

(もぐもぐ、口に含んで咀嚼するような)

シズク 84 「お腹いっぱいになるまでー、『もぐもぐ、ごっくん』つてするの♪ ああむっ……もぐもぐ……ん……もぐもぐ……ん♪♪ ハンバーグ、おいひい♪」

シズク 85 「はむ……もぐもぐもぐ……ん……もぐもぐもぐ」
(啜えながら)

シズク 86 「んふふ♪ 食べ応えあるねー♪ ああむ、もぐもぐもぐ……はあーむ、もぐもぐもぐ……ちゅぱ♪」

男性器をじーつと狙って、かぶりつくフリ。

シズク 87 「おっきいハンバーグは……一気に、かぶりつくっ♪
がっ♪」

主人公、ちよつとびっくり。

シズク 88 「あはは♪ ぴよんって逃げた♪」

シズク 89 「くす♪ くすくす♪ 大丈夫♪ ガブってしないよ？」

シズク 90 「おちんちんは優しく……はあーむ……(啜え) 味わうのが一番♪ ちゅぶ、ちゅぱちゅぶ……れえるれえる……ちゅぱ」

【「」から啜えながら喋る】

シズク 91 「主人の気持ちよさそうな顔も見れるしね♪ はむ、ちゅぱ……その顔、だいひゅき♪」

シズク 92 「ちゅぱ……ちゅぶぶ……ちゅぶ、ちゅぶ……れるれえる……ちゅぶ」

シズク 93 「んぶ、お口いっぱい♪ ちゅぱ……ほっぺ膨らんじやっ
たあ♪」

シズク 94 「ちゅ、れる、ちゅぷ……んうう……一口じゃ食べられな
いよお……♪ はむっ、はむっ、はあーむっ♪」

(30秒。頬張ってもぐもぐなフェラ)

シズク 95 「もぐもぐ……ん♪ ああーむ♪ もぐ、もぐもぐ♪

(★30秒)「

男性器がだんだん持ち上がり、シズクのほっぺが
上へ引っ張られる。

【「」からほっぺを引っ張られてる風に】

シズク 96 「ん……ん？ んうう……んあ……あ……あ〜」

シズク 97 「」しゅ、」しゅじ……ああ〜、ほっぺ、引っかかっ
てあ〜」

シズク 98 「ん、おちんちん、上に、ぐいっぐいって、しない
で〜……あ〜、引っ張られるう〜」

シズク 99 「腰、低くして……ああ……うう……ん」
主人公、腰を低くする。シズク、生還。

【「」から普通に喋る】

シズク 100 「ぶああ、助かったあ。ほっぺ、ほっぺグイーってされ
たあ」

シズク 101 「もー、おちんちん、元気すぎだよお」

シズク 102 「くす♪ 二うなったら、いっぱいびゅーびゅーさせて、
小さくしちゃうからっ♪ 覚悟してねー♪」

シズク 103 「えへへ♪ おっきいハンバーグ、いっただっきまーす♪
ああ〜……あむっ♪」

シズク、奥まで啜えこんで責める。

シズク104 「じゅぶ、じゅぶ……じゅば……ん、じゅぶ……じゅぶ、
じゅぶ……ん、じゅぶ、じゅぶ、じゅば……はあ……あむ、
じゅぶ、じゅぶ……ん、じゅば、じゅぶ……れる、じゅ
ぶ……じゅぶ……れるれるるるる」

腰を引いてしまう主人公。

シズクはすかさず腰に抱きつく。

シズク105 「んあ、ハンバーグ逃げちゃう……ん、ぎゅーって抱き
ついてー、はあーむっ」 (啜え) 逃がさないもん」

【「」から啜えながら喋る】

スペースアップ。

シズク106 「じゅぶ、じゅば、じゅぶぶぶ、じゅぶ、んちゅ、じゅ
ぶ……れるれるるるる、くす、あむ、ん、じゅぶ、
じゅば、じゅば、じゅぶ、じゅぶ、じゅば……ん、じゅ
ぶ、れるれええ」

シズク107 「田ちゃんっ、ん、じゅぶ、じゅぶ……らよ、じゅる、
じゅぶ……口の中に、じゅぶ、ちようだい、じゅぶ、
じゅば……「主人の、白いの……じゅぶ、じゅぶ……っ
びい、ちようだい、じゅぶ、じゅぶ、おねがはい、
じゅぶ、じゅぶ、おねがはい、「主人」」

だんだんと激しくなり、射精。

シズク108 「じゅば、じゅぶぶぶ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぶ、
ん、じゅじゅぶ、れる、れる、じゅじゅぶ、んっ、
じゅぶぶぶ、じゅじゅば、んっ、じゅぶぶぶ、
んっ！、ん、ん……ん……ちゅぶ……ちゅぶ……ん……
ちゅぶ……」

吸い上げる。

シズクニ09 「中に残ってるのも、全部出して？ ちゅ……

ちゅううう……ちゅっちゅ……ちゅー……ん……

ちゅううう……ん、ちゅぱっ」

《◆正面/300mmへ、口を閉じたまま移動》

シズクニ10 「ん……んん……」

シズク、口の中の精液を見せる。

(口を開けたまま喋る)

シズクニ11 「あああ……いっぱい出たね♪ えへへ♪」

飲んでしまっ。

シズクニ12 「んっ……ん……んう……んぐ……ゴクリ……」

【「」から普通に喋る】

シズクニ13 「んはあ……」ちそつちまっ、」

シズクニ14 「あ、うとうとじてるでしょ。ほら着替えて？ お買い

物♪ 一緒に行っ、」

(01-END 3321文字 80秒)

ハンバーグを焼いているシズク。主人公は後ろから抱きついて様子を見ている。

シズク、横に置いた料理雑誌を読む。

《◆右/10cm》

シズク115 「えっと、『綺麗な焼き色が付いたら、ひっくり返す』って」

シズク116 「そろそろいいよね」

シズク117 「んじゃあ二つとも……よっ」と

ハンバーグを一つひっくり返す。ジュー。

シズク118 「こっちもー」

もう一つのハンバーグも返す。

シズク119 「よっ……」

シズク120 「どっ？綺麗に焼けてるでっよ、」

シズク121 「えへへ、早く食べたいねー」

しばし焼く。

(15秒。楽しそうな雰囲気深呼吸)

シズク122 「(★15秒)」

シズク、後ろから抱かれていることにそわそわ。

シズク123 「ん……ご主人？ずっと後ろで見てるけど、そんなに心配？」

シズク124 「大丈夫だよー、ケガしないって」

シズク125 「あ、それとも……私に、ぎゅーってほしいだけ？」

シズク 126 「(照)んふふー♪ それなら、しょうがないなあ♪」

シズク 127 「別にいいけど、ちゃんとぎゅってして」

ぎゅ。

シズク 128 「ん、えへへ」

しばし焼く。

(20秒。楽しそうな雰囲気呼吸)

シズク 129 「(★20秒)」

シズク 130 「ねえねえ、ご主人はどっちのハンバーグがいい？」

シズク 131 「どっちも手のひらサイズだけど、んー……こっちのほうが大きいかも」

シズク 132 「こっち？ やっぱり？ くす♪」

シズク 133 「もうちょっと大きめに作っても良かったかなー」

シズク 134 「ん、ご主人のじゃなくて、私の♪」

シズク 135 「食べ過ぎじゃないよ？ ちゃんと運動してるもん」

シズク 136 「うん、朝走ってる。公園まで」

シズク 137 「え、意外？ 私だってやる時はやるんです」

シズク 138 「だからほら……太ももとか、筋肉付いてるかも」

シズク 139 「うん、触ってみて？」

もみもみ。

シズク 140 「ん……んっ……どう？」

シズク 141 「ぶにぶに？ そんなわけ……ぶにぶにだあ」

シズク 142 「うう、すぐには痩せないか」

シズク 143 「運動ってどれくらい続けられ、こっ、筋肉付いてるって感じになるんだろ」

シズク 144 「一か月？ えー、まだ三日だよ……」

しばし焼く。シズク、もみもみされている。

(20秒。呼吸。たまに『んっ』と声を出す)

シズク 145 「……………ん……………(★20秒)」

シズク 146 「んー? ごしゅじーん、いつまで揉んでるの〜?」

シズク 147 「くす♪ ふにふにがいいのー?」

シズク 148 「えへへ、好きにどーぞ♪」

(15秒。呼吸。たまに『んっ』と声を出す)

シズク 149 「(★15秒)」

シズク 150 「そろそろかなー」

《◆やや下にかがむ》

シズク 151 「焼き加減はーっと……………うん、いい感じ」

シズク、次の手順を読む。

《◆右/10cm 戻る》

シズク 152 「次はー、『両面に焦げ目がついたら、弱火にして』」

《◆やや下にかがむ》

シズク 153 「弱火……………よし」

《◆右/10cm 戻る》

シズク 154 「『大きじ一杯の水を入れて、蒸し焼きにする』……………おっ
けー」

シズク 155 「んじゃあ、お水を入れてー」

水がジュワーっと音を立てる。

フタをする。

シズク 156 「これでよし」

シズク 157 「ちよっと待ちだね〜」

主人公、雑誌に興味を示す。

シズク 158 「ん？ これ？ ああ、今日病院でね、女医さんから貰ったの」

シズク 159 「そう。料理の話で『この本がオススメだよー』って言われて」

シズク、雑誌をぱらぱらめくる。

シズク 160 「ほら、料理の作り方がたくさん載ってて……えへへ、読めば読むほど、お腹空いちやうんだよね」

シズク、とある料理のページを見せる。

シズク 161 「あゝご主人、これとかどう？ 肉じゃが」

シズク 162 「食べてみたい？ くすゝ じゃあ今度ね」

さらにページをめくっていく。

シズク 163 「ん……あとは何が載ってたかな……」

シズク、最後の広告ページに目が止まる。

シズク 164 「お？ 最後のページ、なにこれ……『頑張るあなたに、最高の「ほうびを……心やすらぐ、またたび温泉」」

シズク 165 「おお、なんだか、すごそうっ」

シズク 166 「んでも、温泉って何？？」

シズク 167 「お風呂みたいなもの？ とっても気持ちいい所？」
「「飯に食いつく。」

シズク 168 「え、美味しいご飯もあるのー？」

シズク 169 「へえゝ、温泉かー」

シズク、目をキラキラさせながらにじり寄る。

シズク 170 「ご主人、温泉だって♪」

少し間。

シズク 171 「温泉だよ？ ご主人」

少し間。

《◆右/0cm》（脳に直接語り掛けるような囁き）

シズク 172 「温泉」

《◆右/10cm》

シズク 173 「ほら、ご主人も行きたくなってきた」

シズク 174 「どーするー？ 行くー？」

『行くか』と言われちょっと予想外な様子。

シズク 175 「ん、行くの？ ほんとー？」

シズク 176 「あ、いや、ビックリしちゃった」

シズク 177 「だってほら、この旅館、結構高そうだし……ご主人、大変でしょ？」

シズク 178 「もっと安い所でもっ」

「この旅館にしよう。」

シズク 179 「ほんとにここにいいの？ 私、旅行までずっとしっぽフリフリしちゃっよっ。ほんとに、ほんとにいいのっ？」

シズク 180 「えへへ♪ じゃあ……連れてってくれる？」

シズク 181 「うん♪ 約束♪」

嬉しそうに温泉のページを眺める。

シズク 182 「んー……んふふー♪ どんな料理出てくるんだろー♪」

シズク 183 「マグロ♪ マグロがいいなあ♪ うひひー♪」

シズク 184 「ん、あ、温泉も楽しみだよね？」
シズク 185 「もちろん♪ だってー……」

《◆右/0cm》【ここから小声】

シズク 186 「こーやって体をくっつけてー、温泉に入れるんでしょー。」

シズク 187 「ご主人と、裸で、二人っきり♪ 楽しみだなく♪」

シズク 188 「ねえねえ……温泉で、どんなことしょっか♪」

シズク 189 「どんなこと、してほしい？ んー？」

シズク 190 「（呼吸）……くす♪ どうしたの？」

シズク 191 「もしかして、えっちなこと、想像しちやった？」

ハンバーグが焼ける音が響く。

主人公が呼びかける。

《◆右/10cm》【ここから普通の音量】

シズク 192 「え？ あ、ハンバーグ！ 忘れてたあ」

慌ててフタを開ける。

シズク 193 「あちちち……んえ？ 焦げてないからセーフだよー」

シズク 194 「火はとりあえず止めてっ」と

シズク 195 「ふう……美味しく出来てますよーに……」

シズク 196 「竹串を刺して……（刺す）ん……透明な肉汁が出た

ら……（出る）お……おおう♪ じゅわーって出てきた♪」

シズク 197 「シズクの手作りハンバーグ♪ 無事完成♪」

シズク 198 「どーおご主人？ 美味しそうでしょー♪」

シズク 199 「んー♪ 褒めて褒めてー♪」

シズク 200 「えへへ♪ もーっと褒めてー♪」

シズク 201 「あ、頭は撫でちゃダメ。油飛んでるよ」

《◆右/0cm》（囁き）

シズク 202 「くす♪ 後で、うーっばい撫でて?」

《◆右/10cm》

シズク 203 「うん♪ じゃあ、お皿取ってくれる? おねがい」

お皿を取る主人公。

《◆正面/30cm》

シズク 204 「ありがとう」

(フェードアウト)

(02-END 1508 文字 70秒)

ある日の昼ごろ。旅館の部屋に到着する二人。
戸を開ける。

《◆正面/30cm》

シズク 205 「おお〜♪ 結構広いね〜」

二人、部屋の奥へ。

シズク 206 「荷物どこでいい？」

シズク 207 「はーい」

荷物を置く。

シズク 208 「はあ……手も足も疲れちゃったあ」

シズク、座布団の上に座る。

《◆正面下/30cm》

シズク 209 「ふう〜……」

庭から風が流れる。

空気を大きく吸って吐く。

シズク 210 「すー……はあ〜……んー、家と違う匂いがする。

すー……はあ〜……うん、空気が美味しい♪」

シズク 211 「ご主人、この旅館で正解だね♪ そんな感じがする。ま

だ何もしてないけど……えへへ」

しばし間。小鳥のさえずりが心地いい。

シズク 212 「すー……はあ〜」

シズク 213 「ん、ご主人も座りなよ〜。一緒に休憩〜♪」

主人公、座る。

《◆正面/30cm》

シズク 214 「すー……はあ〜」

シズク 215 「でも、晴れて良かったねー。雨降るかもしれないなかったんでしょ〜。」

シズク 216 「うん、ほんと良かったあ」

シズク、体を伸ばす。

シズク 217 「ん〜〜〜……はあ♪」

シズク 218 「歩き疲れた体は、温泉で癒すに限る♪」

シズク 219 「もう入れるんだよね？ 入る入る♪」

入浴の準備。荷物をガサゴソ。

シズク 220 「あ、露天風呂って何持ってたらしいのかな」

シズク 221 「着替え？ ああ、シャツは持ってきたよ？」

シズク 222 「うん、ご主人のシャツ。五枚くらい。もちろん私が着る用」

シズク 223 「え、違うの？」

主人公、旅館の温泉浴衣を取り出す。

シズク 224 「何それ。あったかそー♪」

シズク 225 「温泉浴衣って言うの？ へえー」

シズク 226 「それ貸してー？」

シズク、浴衣を受け取る。

シズク 227 「ん、ありがとー♪」

シズク 228 「お返しにー、シャツ一枚あげる♪ は〜♪」

主人公、主人公のシャツを受け取る。

シズク 229 「ん、お礼はいいよ♪ くす♪」

シズク 230 「さてと、早く温泉行こ♪ ご主人♪」

二人並んで歩く。

シズク、うつきうき。

《◆右/30cm》

シズク 231 「えへへー♪」

シズク 232 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

シズク 233 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

シズク 234 「ほら、ご主人も一緒にー♪ せーのっ」

(フェードアウト)

シズク 235 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

シズク 236 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

(03-END 458 文字)

露天風呂。二人がお風呂でまったり。

《◆右/30cm》

シズク 237 「はぁぁ……とけちやうう〜♪」

シズク 238 「温泉、さいこお〜♪ ふえ〜」

シズク 239 「こしゅじーん、くつつこーよー」

《◆右/10cm 近づくと》

シズク 240 「ん……ん、はぁ……ふう」

シズク、主人公の体をまさぐる。

シズク 241 「ん……ご主人の体って、ガッチリしてるよね」

シズク 242 「んー……んー……おお」

シズク 243 「肩も……背中も……うん」

シズク 244 「私みたいなぶにぶにの体と、ぜんぜん違う」

シズク 245 「うん……さすが、オス♪」

シズク 246 「私の、かっこいい、オス♪ んふふ」

《◆右/0cm 近づいて密着》

シズク 247 「ぎゅー……ん♪」

シズク 248 「あったかぁーい……ん♪ はぁ……ん♪」

シズク 249 「くす♪ ご主人、顔赤いよ？ 大丈夫ー？」

シズク 250 「温泉は、リラックスだよー♪」

シズクが自分の胸をつつく。

シズク 251 「ほら、おっぱい見てー？ つんつん♪ つーんつん♪」

シズク 252 「沈めようとしても、ぷかーって浮いてくるの♪ くす♪
す♪」でじょよ♪」

シズク 253 「これなら、おぼれても安心♪」

シズク 254 「こ主人も、おぼれそうになったら私にぎゅーってするんだよ？ えへへ♪」

シズク 255 「ぎゅー……♪」

遠くから鈴の音が聞こえる。

《◆右/10cm》

シズク 256 「ん……あれ？ ここって貸し切りだね。お客さんが来たみたい」

主人公、ちよつと動揺。

シズク 257 「くす♪ ビックリしないで？ ほら、人じゃなくて、猫さん。ここの宿に住んでるのかなー。挨拶してみよっか♪」

《◆右斜め前/30cm》

シズク 258 「にゃーう♪ こんにちはー♪」

猫が鈴の音を鳴らしながら近づく。

シズク 259 「なーに？ 撫でてほしいの？」

シズク 260 「しょうがないなあ、いっよ♪」

シズク、宿の猫を可愛がる。

シズク 261 「えへへ♪ よーしよし♪、ここの気持ちいいでしょー♪
うんうん♪ 分かる分かるー♪」

シズク 262 「この猫さん、毛が濡れても大丈夫なんだね。温泉に慣れているのかなー」

シズク 263 「うん、普通は『気持ち悪い』って思っちゃう。私も猫
だった頃は、お風呂苦手だったし」

シズク 264 「珍しい猫さんだね〜」

猫が主人公の前へ。

シズク 265 「あ、ご主人にも甘えたいの？ んー、ちょっとだけだよ〜」

シズク 266 「ご主人、撫でてほしいんだって」

主人公、猫を撫でる。

猫は体をくねらせて、鈴音を鳴らす。

シズク 267 「ああ……気持ちよさそう♪」

シズク 268 「うんうん……首の横も……ほっぺのとも……なでなで……すりすり……そこ、気持ちいいんだよねえ」

シズク 269 「はあ……いいなー」

主人公の撫でっぷりにシズクそわそわ。

シズク 270 「おっ、背中も撫でるの？ 結構サービスするねー」

シズク 271 「あ……ああ……あ、あ」

シズク 272 「んっ！ し、しっぽの付け根も……っ！？」

シズク 273 「お……あ……あ、あ、ス、ストップ！ やりすぎじゃないか〜」

シズク 274 「そこは、とっても気持ちいいところだよ！？ 会ったばかりの猫さんに、やる事じゃないと思うな〜っ！」

シズク 275 「うんっ！ 猫さんが勘違いしたらどうするの？」

シズク 276 「え？ いや、勘違いっていうのは、その……」

猫、主人公の顔に近づく。（鈴音が間近に）

シズク 277 「あ、猫さん！ 顔スリスリはだめっ！」

シズク、猫に威嚇する。

シズク 278 「フーツ！ フーツ！ フーツ……
フーツ……」

猫、どこかに走って行ってしまふ。

シズク 279 「ぶんっ」

主人公、恐る恐るシズクを見る。

《◆正面/30cm》

シズク 280 「ん……なーに？」

シズク 281 「あの目見たでしょ？ ご主人のこと狙ってた」

シズク 282 「絶対狙ってたっ」

シズク 283 「うー……よその猫さんにああいう撫で方しちやダメっ」

シズク 284 「なんでって、しっぽの付け根だよ！？ しっぽの付け
根ー」

シズク 285 「もう、分かってない！ ご主人のばかりっ！」

シズク、そっぽを向く。

シズク 286 「うぐぐ……う……う……」

主人公、そっと手を伸ばす。

シズク 287 「ん……やだ……撫でないでよ……」

主人公、シズクの頭を優しく撫でる。

シズク 288 「んっ……んう……謝っても、んっ、許さないもん
しばしなでなで。

シズク 289 「ん……んん……んあ……んっ」

シズク 290 「いつまで撫でる気？ ほっといてよ……それ以上撫でた
ら、引つかくよっ。」

主人公、撫でるのをやめない。

シズク 291 「あ……んっ……んっ……うっ……もう」

《◆右耳/003 シズクが抱きつく》

シズク 292 「ん……」

シズク 293 「そんなに謝るんだったら……してよ」

シズク 294 「私のことも、可愛がってよお」

シズク、お尻をふりふり。

シズク 295 「ん、ほら……さっきの猫さんみたいに……しっぽ……

しっぽすりすり……おねがい、ご主人……おねがい」

しっぽの付け根を撫でられる。

シズク、たまらにやい気持ちよさに体をくねらせる。

シズク 296 「ん……はああ♪ はうう♪ んっ♪ んうっ♪」

シズク 297 「ゆっくりい……ゆっくりでおねがい♪」

シズク 298 「はあ、んっ♪ 人間になってから、ん♪ こっ、触られたこと無いから……はあ……敏感、なの♪」

シズク 299 「ん、はああ♪ んっ♪ そんな感じ♪ んっ♪ きもちっ♪」

シズク 300 「はあ……はうう♪ ん、はああ♪」

シズク 301 「ご主人……ごめんねはもういいから……ん、好きって……はあ、好きって、言っっ♪ はあ♪」

好きと言われ嬉しそう。

シズク 302 「ん♪ えへへ♪ はあ……近い♪ えへ、くすぐったっ♪ あはは♪ んっ、はあ、はあ♪」

シズク 303 「私も好き……はあ、ご主人、好き……はあ……
んん……はあ〜♪」

シズク 304 「耳元で好きって言われるの……はあ、すごい♪
んっ♪ 耳、気持ちいい♪」

シズク 305 「んう〜……はあ〜……好き……好き♪」

シズク 306 「うん……好き……好き……はあ……大好き♪」

シズク 307 「はあ……うう……♪ ん、はあ……♪」

シズク 308 「え？ しっぱ、くねくねしてる？」

シズク 309 「ん、やーあ、見ないで……恥ずかしいよお」

《◆右耳/0cm から 正面/0cm へ移動しながら》

シズク 310 「にっしゅじーん♪ 見ちゃだーめ♪」

甘い声を漏らしながらキス。

シズク 311 「んむ……ちゅ……ちゅ、ちゅっれる……んっ♪ れえ
る……んっ、ちゅぶ、ちゅ、ちゅー……はあ……んっ♪
んちゅ……れえる、れえろ、ん、れる、れえる」

シズク 312 「んへへ♪ もっとちゅーしよ♪」

シズク 313 「あむっ♪ れえる、れる、れる……んっ♪ ちゅ、
ちゅぶ……はあ、あむっ……ん♪ ちゅ、ちゅ……れるれ
る……ん、ちゅぱ……れる、ちゅ……れえるれる……
ちゅ……ちゅ、ちゅ……んっ♪ ちゅー……れるれる」

《◆正面/10cm》

シズク 314 「ぶあ……今度はー、ほっぺ♪」

シズク 315 「私のほっぺ、むにゅーっして可愛がってよ♪ ほら♪
んっ♪」

シズク、主人公に頬をぶにぶにされる。楽しい。

シズク 316 「んゅ〜♪ う〜♪ んあ〜♪ くすくす♪」

シズク 317 「私のほっぺ、もちもちする〜? ん〜」
う〜」

ほっぺもちもち。もち、もち。

シズク 318 「ん〜♪ うっ♪ う、う♪ う〜♪」

シズク 319 「遊んでるでしょ〜♪」

シズク 320 「ん〜、こしゅじーん♪」

《◆正面/0cm そのまま近づいてキス》

シズク 321 「う〜ちゅ、ちゅっ……ちゅっ……ちゅー♪ ちゅー♪」

シズク 322 「んう〜……口、変な形になってない〜?」

シズク 323 「ん〜ちゅ……むちゅ、ちゅっ……ちゅ、ん〜……ちゅ、
ちゅー……ちゅう……んちゅ……ちゅっちゅー……
ちゅー♪」

《◆正面/10cm》

シズク 324 「こ主人、もっとお♪」

《◆正面/0cm 甘い声とティープキス》

シズク 325 「ん、ちゅ♪ れるちゅ♪ ん、ちゅっちゅ……ちゅー♪
れえる、れる、れる、れる♪」

シズク 326 「はむ、ちゅ♪ あむ、ちゅ♪ あーむ、ちゅ♪」

シズク 327 「れるれるれる……ん、ちゅ♪ ちゅっちゅ♪ れえる、
れる♪ ちゅ、ちゅぶ、ちゅ……あむ、ちゅ♪ れる、れ
る、れる、れる」

《◆左耳/0cm 移動しながら》

シズク 328 「はあ……はあ……♪」

シズク 329 「こ主人……あそこ、ウズウズするっ」

シズク 330 「うん……こ主人とちゅーして、発情しちゃった、か
も……えへへ」

シズク 331 「はあ……はあ……」

シズク 332 「ねえご主人……あそこも、なでなで、してくれる？」

シズク 333 「はあ……おねがい……ご主人の指で、なでなで♪ おねがい♪」

シズク、陰部を優しく愛撫され、甘い声を漏らす。

シズク 334 「はあ……んっ♪ んっ、ん……あんっ♪ あっ……

はあっ」

シズク 335 「ぬるぬる、してる？ んっ……えへへ……しっぽ撫でてくれた時から、はあ……ずっとそうだよ？」

シズク 336 「んっ……ご主人、上手だから……んっ、あ……はあ……ご主人の指は……ふう、んっ……メスの猫を、ふわふわあつてさせちゃうの」

シズク 337 「んっ……だから……はあ……ほかのメスに、なでなでは、だめ……♪ はあ……約束だよ？ んっ、約束う♪」

シズク 338 「ああ……んっ……ん、あう……はっ……んっ……はあ、ん♪」

《◆正面/0cm 喘ぎの混じったキス》

シズク 339 「はあ……ご主人、好き♪」

シズク 340 「ん、ちゅ♪ んっ♪ ちゅ、れるれろ、れる♪ あ、ん♪ はあ、むちゅ♪ ん♪ れえるれるれる♪ れる、れる、れる♪ んっ♪ れえる、れる、れる♪ ちゅ、ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅー……ちゅっちゅ♪」

《◆正面/10cm》

シズク、陰核を撫でられ反応が変わる。

シズク 341 「あ、あっ♪ 待って、そこ、あっ♪ 刺激、つよ♪ は、ん、あっ♪ ど」「んっ、ど」「触ってるの？ あっ♪ あう♪ そこ♪ あ、そこ♪ 指♪ 指、あっ♪ すこ♪ んっ、あっ♪ 気持ち、いい♪」

ぽたぽたと水が滴り落ちる。

シズク、心地よさに脱力、もう一度しがみつく。

《◆やや下に脱力してから 正面/10cm へ戻る》

シズク 342 「はっ、あう、ふう♪ ん、あっ♪ はっ、はあ……
んっ♪ はあ、うっ……あ、はあ……は、ああ♪」

(この後も、軽く脱力するポイントを置いていきます。カクンと下に落ちて戻るイメージ)

シズク 343 「えへ♪ 私の、弱点、はあ、見つかったあ♪ ふ、ぐっ、えへへ♪ こしゅじ、あっ♪ 指♪ 指、くりくり♪ きもち(脱力)は、あ、はうう……はあ、はあ」

シズク 344 「そこばっか♪ そこ、ばっか、だめ♪(脱力)あっ、
はあ♪ お水、あ♪ お水出ちゃ♪ ふ、あっ♪ えっちなお水、出ちゃうよお♪ ん、は♪ だ、め♪ あ、あっ♪」

シズク、軽く絶頂をする。

シズク 345 「ああああ♪ ん♪(脱力)んあ……はあ……はあ」
ぽたぽた、水が止まらない。

シズク 346 「こ主人……はあ、こしゅじーん♪ あ、あっ♪ んっ♪
好き♪ あっ♪ 好きい♪ こ主人、大好きい♪」

《◆正面/0cm 喘ぎの混じったキス》

シズク 347 「はあ……ん、ちゅ♪ はあ、れるれる、れるれる♪
はあん♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ♪ ん、ちゅ♪ んはあ♪
れえる、れる、れる♪ ちゅー、ちゅ♪ ちゅっちゅ♪
はあ、ちゅ♪ れるれるれるれる、んちゅ♪」

《◆正面/10cm》

シズク 348 「はあ、はあ」
シズク 349 「ご主人も、『大好き』って、んっ、言っ♪ はあ、
あっ♪ ご主人の声、耳元で、聴かせて♪ ん、んっ、
あっ♪」

愛を囁かれ、より感じるように。

《◆右斜め前/10cm 耳元が主人公の口に来る》

シズク 350 「は、あっ♪ あ、あ、あっ♪ これ♪ これ、だめ、か
も♪ あっ、すべいつちやう♪ は、ん、気持ちいい♪
ご主人の声、気持ちいい♪」
シズク 351 「ん、ぶっ、ん、はあ♪ は、はう♪ ん、ん、あ、あ、
あっ♪」

絶頂へ。

シズク 352 「だめ、だめ♪ すこいの、来ちやう♪ 来ちや、はっ♪
っっっ、ひっ♪ あ、あ、あ、あっ♪ あっ♪ ぐく、い
く、ぐくぐくぐく♪ っ、くううう♪ (絶頂)
あああああっ♪」

水がプシヤッと吹き出す。

シズク、体を震わせながら辛うじて呼吸。余韻。

《◆右斜め前/10cm から少しずつ下へ》

シズク 353 「あっ……あっ……はっ……はっ……ん、はあ……
はあ……はあ……っ♪」

シズク 354 「えへ……力はいんなーい……♪」

シズク 355 「おぼれちゃうう……助けてー？ ごしゅじーん……♪」

主人公がシズクを抱きしめる。

《◆右耳/右目 抱きかかえられて移動》

シズク 356 「はあ……ん、ぎゅ〜……はあ……ん、はあ……はあ……

はあ……」

シズク 357 「ありがとう……ん、えへへ……さすがご主人だね……

私、メロメロにされちゃったあ」

シズク 358 「んふふー……すきー……ちゅ♪ すきー……ちゅ♪」

シズク 359 「くす……ねえご主人……硬いの、お腹に当たってる♪」

シズク 360 「えへへ、ずっと我慢してたの？」

シズク 361 「ごめんね？ 私だけ気持ちよくなっちゃった」

(囁き)

シズク 362 「(一呼吸)……お返し、してあげよっか♪」

(04-END 3262 文中)

引き続き露天風呂。

《◆右耳/0cm》

【「」から小声】

シズク 363 「じゃあ、手でするね?」

シズク、男性器を握る。

シズク 364 「ん……はあ……すこし硬い……」

ゆっくりと扱く。

シズク 365 「はあ……はあ……あ、はあ……ん」

シズク 366 「おちんちん、びしょ濡れだね、ん……はあ……さっき、私のあそこから、気持ちいいお水がいっぱい出て……

はあ……」主人のおちんちんに、びちゃびちゃって、か
かっちゃったもんね」

シズク 367 「えへへ、ぬるぬる、ぐしょぐしょ、エッチなおち
んちんになっちゃった」

シズク 368 「はあ、はあ……ん、はあ……はあ……ふう……はあ……
はあ……」

シズク 369 「ぬちゅ、ぬちゅ……ぬちゅぬちゅ」

シズク 370 「見てー? ぬるぬるが、いっぱい指にからまっているの、
はあ……」のぬるぬるって、私のだけじゃないうねー」

シズク、先っぽをつんつん。

シズク 371 「あ、やっほり、つんつん、つんつん、ほら、
おちんちんの先っぽからー、ぬるぬるがとんとん出てくる、
えへへ、気持ちいいの。」

シズク 372 「つんつん♪ つーんつん♪ くす♪ 糸引いてる♪」
シズク 373 「これって、しゅこしゅこすれば、もっと出るのかな♪」
シズク 374 「ねえご主人♪ もっと出してみて♪ エッチなぬるぬる、もっとう出してよ♪」

シズク 375 「私の柔らかい手のひらで、搾るみたいにー」

シズク、またゆっくり抜く。

シズク 376 「しゅこ、しゅこ……しゅこ、しゅこ♪ はあ、しゅこしゅこしゅこ♪、しゅこしゅこー♪」

シズク 377 「あれ？ もうおちんちん、膨らんできてない？」

シズク 378 「んー、ずっと我慢してたもんね」

シズク 379 「でもご主人、すぐに出しちゃダメだよ？」

シズク 380 「だって……まださっきの事、許してないもん♪」

シズク 381 「ご主人の周りに、どろぼー猫さんが来ないように……私がご主人の体に、マーキングしちゃう♪」

シズク 382 「マーキングが終わるまで、出すのは我慢だよ？ 我慢出来たら、仲直り♪」

シズク 383 「約束出来る？ ご主人♪」

シズク 384 「うん♪ 頑張ろうね♪」

シズク 385 「じゃあ早速、マーキングしちゃいまーす♪」

シズク、首筋を舐める。

《◆右耳やや下/10cm 首筋のあたり》

【「こ」から普通の音量】

シズク 386 「はむっ……ちゅ♪、ちゅっちゅ……あむっ……ちゅ……れる、れる……ちゅ……れえるれるれる♪」

シズク 387 「えへへ♪ 首筋、くすぐったい？ はむっ、ちゅぱ♪」

シズク 388 「我慢だよー♪」

【ここから首筋まわりを左へ右へ、自由に責めて
ください】

(30秒。首筋舐め)

シズク 389 「はあくむっ……れえる、れる……ちゅ、れる……♪

(★30秒)」

シズク 390 「あったかあい温泉で、おちんちんしゅこしゅこされ
て……ちゅぶ、れるれる……あったかあい舌で、首をこ
しゅこしゅこ、れるれるれる……♪ 幸せ？ ちゅ、れえ
るれる……ちゅぽ」

シズク 391 「全身こすり付けてー、私の匂いで、いっぱいにしてあげ
る♪ ちゅぶ、ちゅ……れるれるれる♪」

シズク 392 「おっぱいも、むにゅむにゅー♪」

(30秒。楽しそうに首筋舐め。いきなり反対側
を舐めるみたいな不意打ちも出来れば)

シズク 393 「れえるれる……ん、あむっ♪ れるれる♪

(★30秒)」

シズク 394 「んぶぶ、もっとくすぐぐちゅー♪」

(30秒。首筋舐め続き)

シズク 395 「(★30秒)」

【首筋まわりの自由移動はここまで】

《◆正面やや左下/15cm 左乳首に移動しながら》

シズク 396 「次はー……乳首♪」

シズク 397 「ここもー、マーキングしなきゃねー♪」

シズク、主人公の乳首を吸ったり舐めたり。

シズク 398 「はあーむっ……ちゅっちゅ♪ れるれる……ちゅ♪ ん
ふふ、きもちい？ ちゅー♪ あむっ♪ ちゅー♪
ちゅっちゅ♪ れる、ちゅっちゅ♪」

シズク 399 「こうしていると、子猫に戻った気分……ちゅ、ちゅ……マ
マー♪ ミルクちょうだい♪ なんて♪ くす♪」

シズク 400 「あむっ♪ ちゅー♪ れる、れる……ちゅ……はむっ、
ちゅー、ちゅっちゅ♪ ちゅー♪」

シズク 401 「んー？ ママー、ミルク出ないよお？」

シズク 402 「はむっ♪ れるれる……ちゅ、ちゅ……ちゅー♪」

シズク 403 「もっと強く吸ったほうがいいのかなー」

(強めにちゅぱ)

シズク 404 「ちゅっちゅ♪ ちゅー、ちゅぱ♪ ちゅ、ちゅ、
ちゅっ♪ ちゅぱ♪」

シズク 405 「それともー、舌でペろペろしたほうがいい？」

(ねっとり舐め)

シズク 406 「あむっ♪ ねえる、れる、れる……ねえろ♪ れる、れ
る、れる、れる……ねえる、れる♪」

シズク 407 「くす♪ ミルクは出ないけど、おちんちんはすごい反
応♪ えへへ、嬉しいんだ〜」

《◆正面やや右下/15cm 右乳首》

シズク 408 「じゃあこっちの乳首もー♪」

シズク 409 「ああーむっ♪ ちゅっちゅ……ねえる、れる……はむっ、
ちゅ♪ れる、んちゅ……ちゅー♪」

シズク 410 「これ、なんだか落ち着く……ちゅ♪ ちゅ♪ あむっ、
ちゅ♪ はあむっ、ちゅ♪」

シズク 411 「ううしながらお昼寝するのも、いいかもね……れる、ちゅ♪ ちゅー……ちゅぱ♪」

シズク 412 「えへへ、ダメ？ いいじゃん、ご主人も気持ちよく眠れるよ？ れる、れる、れえる……私の猫舌を感じながら……れえる、れる……ぐっすり♪ れる、れる、れえる♪ れるれる♪ えへへ♪ 眠れなくなっちゃうかな」

(頬張るまっぴに)

シズク 413 「ああーむっ、ちゅぱ♪ あむっ、ちゅぱ♪ はむっ、はむっ、はあむ♪ ちゅー、ちゅぱ♪ あーむっ、ちゅぱ♪ は♪」

《◆右耳/ocinへ移動しながら》【ここから小声】

シズク 414 「(一呼吸)」

シズク 415 「今度はー、お耳♪」

シズク 416 「ここにも、私の匂い、付けてらーい？」

シズク 417 「お耳の周りも、お耳の奥も、ちゅぱちゅぱーってするの♪ うーいっ♪」

シズク 418 「ダメって言っても……しゅこ、しゅこ♪ おちんちん気持ちよくて、逃げられないよね♪」

シズク 419 「くす♪ 無防備なお耳、いただきまーす♪」

シズク、主人公の耳を美味しそうに啜える。

シズク 420 「はあ〜……あむっ♪」

(40秒。ねっとり耳舐め)

シズク 421 「れるれる、ちゅぷ……はむっ、れえる……れる……

(★40秒)」

シズク 422 「気持ちいっ？ えへへ♪」

シズク 423 「奥も舐めちゃうねー」

(奥にねじ込むような耳舐め)

シズク 424 「れえる、れえる……はあく、れえる、れえろ、れえ
る……れえる、れえる、れる……」

シズク 425 「んふ、ご主人、声出てるよ?」

シズク 426 「もっとしてあげる♪」

(40秒。奥にねじ込むような耳舐め)

シズク 427 「(★40秒)」

シズク 428 「鳴き声、かわいい♪ 猫みたい♪」

シズク 429 「はあ、はあ……もっと聞かせて♪」

(40秒。頬張るような耳舐め)

シズク 430 「はあむっ、ちゅ……はむっ、れる、ちゅ……

(★40秒)」

《◆正面/10cm へ移動しながら》

シズク 431 「(一呼吸)」

シズク 432 「猫みたいって言われるの、恥ずかしい?」

シズク 433 「えへへ♪ 恥ずかしい事じゃないよ? 私とご主人は、
猫みたいにジャレ合ってるだけ♪」

《◆左耳/0cm》

シズク 434 「だから、もっと猫になってみようよ」

シズク 435 「体をふにゃふにゃして楽にして……」

シズク 436 「みゃううって鳴き声を出して……」

シズク 437 「私にぎゅって抱きついて……うっぱい、うーっぱい、
シズクに甘えてっ。」

シズク 438 「ちゅーっゅー」

- シズク 439 「猫になったご主人も、大好きだよ♪ ああむっ♪」
(40秒。ねっとり耳舐め)
- シズク 440 「ちゅぷ、ちゅぱ……れえる……ちゅ(★40秒)」
- シズク 441 「おちんちんもー、しっぽの付け根をイジるみたい
にー……しゅ「しゅニー♪、しゅ「しゅニー♪、しゅニ
しゅニ♪、しゅニ「しゅニ〜♪」
- シズク 442 「猫さん♪、しっぽイジられるの、気持ちいいです
かー？ たまらにやいですかー？」
- シズク 443 「くすくす♪、しっぽ、すごい暴れてる♪」
- シズク 444 「もー♪、えっちな猫さんになっちゃったねっ」
- シズク 445 「いけない猫さんは、ちゃんとシツけないと♪、くす♪
ああ〜むっ♪」
(奥にねじ込むような耳舐め)
- シズク 446 「れえる、れえる、れえろ、れえる……れえろ、れえる」
- シズク 447 「んぷぷ、しっぽも、しゅこしゅこ〜♪、我慢出来るか
なー♪」
(40秒。ねじ込むような耳舐め。時折鳴き声)
- シズク 448 「あむっ、れえる、れろ……んぷぷ……ん♪、れえる、れ
る……んみゃあ、あむ♪(★40秒)」
- シズク 449 「出ちやいそっ？、ん、だーめ♪、もうちよつと我慢♪」
(30秒。頬張り舐めまわす耳舐め。時折鳴き
声)
- シズク 450 「ああむっ、れるれる……あむ、あむ♪、みゃあ……あ
むっ、れえる♪(★30秒)」
- シズク 451 「ぶはあ……もう我慢出来なの？」
- シズク 452 「んー、しょうがないなあ♪、「うち回っつ♪」

《◆正面/0cm ティープレキス》

シズク 453 「ん、ちゅ♪ れるれる、ちゅ……れえる、ちゅ♪ はむ、
ちゅ♪ れえる、れるれるれる♪ ちゅー、ちゅぱ♪」

《◆正面/10cm》

シズク 454 「はい、これで仲直り♪」

シズク 455 「うん♪ もうマーキングはおしまっ♪」

シズク 456 「意地悪してごめんね？ 出してっつよ♪」

《◆左耳/0cm》

扱く手が早くなる。

シズク 457 「はあ、はあ♪ ん、はあ、はあ♪」

シズク 458 「猫さん♪ よーく聞いってー?」

シズク 459 「私がせーのって言ったら、猫さんのお耳、ぱっくんって
食べちゃっ♪」

シズク 460 「はあ、はあ♪ お耳ちゅぱちゅぱされながら、びゅっ
びゅっ♪ 絶対気持ちいい♪ はあ♪ 我慢した分、ぜー
んぞ出さちゃっね♪」

シズク 461 「はあ、はあ♪ うっぱっしゅっしゅにするから、びゅっ
びゅ頑張れー♪」

シズク 462 「っゅっゅっゅーん、っゅっゅっゅっゅーん、はあ♪
っゅっゅっゅっゅ、っゅっゅっゅっゅっゅっゅ」

シズク 463 「頑張れ♪ 頑張れ♪ はあ、はあ♪ ん、はあ♪」

シズク 464 「あ♪ おちんちん膨らんできた♪ えへへ♪ 出してっ
っゅっゅっゅっゅ」

シズク 465 「お耳ちゅぱちゅぱ、いっぱいする♪ いくよー？」

シズク 466 「せえーのっ♪ はあむっ♪」

シズク、射精にびっくりうっとりしながら、耳を責める。

シズク 467 「れるれる、んっ！ れる♪ んー♪ れるれる♪ んっ、んっ……れるれる♪ んふふ♪ んく♪ れるれるれえる♪ れるれえる、れるれる♪ ん♪ れえるれえるれる♪ んん♪ れえる、れえる、れえろ♪」

だんだん緩やかに。

シズク 468 「ちゅぷ、ちゅ……れえるれる……ん……れるれる……ん……れえる……ちゅぱ♪」

シズク 469 「はあ、すーい……お手手もべとべとー♪」

シズク 470 「くす♪ びゅーっびゅーっ、いっぱい飛んでたよ♪
」の量は初めてかも」

シズク 471 「全部出せた？」

シズク 472 「ん、良かった♪ お疲れ様、ご主人♪」
しばし間。

◆《左耳/10cm》【「」から普通の音量】

シズク 473 「ぶう……のぼせちゃうといけないね。そろそろ出る？」
ご主人が抱きついて離れない。

シズク 474 「ん、ご主人？ もー、まだ猫さんでいたいのか？ んー、いつものご主人に戻ってくれないと、困っちゃうなあ」

シズク 475 「くす♪ じゃあ、お部屋に戻ったら、また甘えていいよc。」

シズク 476 「お布団あったよね。二人でごろごろっしてしよーよ♪」

シズク 477 「よし♪ 決定♪」

(05-END 3022 文字 320 秒)

部屋に戻って休憩中。

布団がもぞもぞ。

シズク、布団から顔を出す。

《◆正面ト/30cm》

シズク 478 「んー、ばあっ♪」

シズク 479 「びっくりした？」

わあびっくり。

シズク 480 「ん、わざとらしいなー」

シズク 481 「んじゃあ、これは？」

シズク、布団をめくる。

シズク 482 「じゃーん♪ 温泉浴衣♪ こっそり着替えちゃった♪」

シズク 483 「お、びっくりしたー？ どーよ♪ ご主人とおそろい♪

えへへ♪」

シズク、隣をぼんぼん。

シズク 484 「ねえねえご主人、お布団入るー？ ふかふかであったか

っよーっ。」

シズク 485 「おっでおっでーん♪」

布団を被る主人公。二人でもぞもぞ。

《◆正面/30cm もぞもぞ》

シズク 486 「お布団がぶってー……ん……ん……ん……」

もぞもぞしているうちに浴衣が崩れてしまっ。

シズク 487 「あ、あれ……あ……あ……あ……！」

シズク 488 「いやあ、そのー……浴衣が崩れちゃってー」

シズク 489 「ん、大丈夫、自分で直してみる」

シズク、浴衣を直そうとする。

シズク 490 「ん、しょ……見よう見まね♪ 浴衣を直すのもー……ん、

私に……まかせ、て……ん……んー？」

シズク 491 「思ってたより、難しいかも……」

シズク、主人公に近づく。

《◆正面/10cm 近づく》

シズク 492 「ご主人、直してほしいなー♪」

シズク 493 「うん、おねがい♪」

しばし直す。シズク、声が漏れる。

シズク 494 「ん……ん……ん……」

シズク 495 「ああ、気にしないで……体、こすれちゃって……」

シズク 496 「ん……ん……んっ♪」

シズク 497 「えへへ、バレちゃった？ 下、何も履いてないんだよねー」

シズク 498 「そのほうが動きやすいし、いいでしょ？」

シズク 499 「ん……ん……ん？」

シズク 500 「ご主人、目そらしてたら直せないんじゃない？ ちゃんと見てよっ」

シズク 501 「ん……んっ……」

シズク 502 「まあ、お布団の中なら、二人つきりだしー」

《◆右耳/0cm》（囁き）

シズク 503 「直すんじゃないくて、脱がしてもいいけど♪ くすっ♪」

主人公、ちゃんと帯を締める。

《◆正面/30cm》

シズク 504 「んお、きつく締めないでっ……おお……運動不足のお腹に、その締め付けは、効くぅ……!」

シズク 505 「(小声)むう、おちんちんが小さい時は素直じゃないんだね……っ」

シズク 506 「ん、ご主人だって崩れてるよ?」

シズク 507 「うん、胸がちよっと見えてる」

シズク 508 「ふふー♪ 直される前にー」

《◆正面やや下/10cm 抱きつく》

【「」から顔すりすり】

シズク 509 「ぎゅ〜♪ ん〜……んう〜」

シズク 510 「顔すりすりして〜……マーキングう〜♪ ん〜……んい〜……私のだぞーって……アピールするの〜」

シズク 511 「んあ〜……♪ んう〜……♪」

シズク 512 「ん〜、さっきの事お〜? 引きずってるに決まってるよお〜」

シズク 513 「私以外の猫さんにい、あんなになでなでしちやダメえ〜……うう〜……」

【「」まで顔すりすり】

シズク 514 「もうしない? ほんと?」

シズク 515 「もし嘘だったら、ずっとイカクするからね?」

威嚇(本気じゃないけど)

シズク 516 「フーッ……! フー……! フー……!」

シズク 517 「怖いでっかー♪ フー……がっ♪」

シズク 518 「あはは♪ 大丈夫♪ 噛んだりはしないって」

シズク 519 「うん、絶対しない」

シズク 520 「好きな人に噛みつくなんて出来ないよ」

シズク 521 「……喧嘩もしたくないし」

シズク 522 「その……私もごめんねっ……つい熱くなっちゃって」

シズク 523 「うん♪ これでちゃんと、仲直り♪」

シズク、また顔すりすり。

シズク 524 「んう~~~~でも、匂いは付けとく~~~~」

シズク 525 「んあ~~~~♪ んう~~~~」

んあ~~~~」

シズク 526 「ん、満足♪ えへへ♪」

シズク 527 「今度はー、ご主人が甘える番♪」

シズク 528 「さっき言ったでしょ？ 猫みたいに、甘えたいって♪
らうた♪」

《◆正面/30cm》

シズク 529 「ほーら猫さーん♪ 私の胸においでー♪」

主人公がシズクに抱きつく。

《◆正面やや上/10cm 今度はシズクの胸に主人公
が来る》

シズク 530 「ぎゅ~~~~」

シズク、主人公をなでなで。

シズク 531 「っん♪ よし、よし……っん、っん♪ んふ

ぶー♪」

シズク 532 「っ主人のおかげで、こんなにいい所に来れたんだもん。

っ主人も、いっぱい癒されないとねー♪」

(『みゃう』短めの鳴き声)

シズク 533 「みゃう♪ ありがと、ご主人♪」

シズク 534 「私はなでなでしてるから……ご主人はごろごろって、お昼寝する猫になるうね♪」

シズク 535 「よし、よし♪ (呼吸) ……よし、よし♪」

シズク 536 「えへへ♪ ここが気持ちいいでしょー♪ うんうん、分かる分かる♪」

(左右にゆらゆら)

シズク 537 「(左)首の横も……(右)ほっぺのともも……

(左)なでなで……(右)すりすり……」

シズク 538 「どーお？ 猫みたいに撫でられるの♪」

シズク 539 「えへへ♪ 今のご主人は、猫だからねー♪」

シズク 540 「ご主人は頑張り屋さんだもん。今日くらいは、猫になってもいいと思う」

シズク 541 「私が受け止める♪ だから、大丈夫だよ♪ 私の胸の中で、うっぴい猫になるうね♪」

シズク 542 「(呼吸) ……よし、よし……ううん、ううん……♪」

《◆右上/10cm 右から覗き込む》

シズク 543 「私の胸に、ぎゅーって、顔をうずめて？」
より強く抱きつく主人公。

《◆正面やや上/10cm》

シズク 544 「はあ……ん……そんな感じ……♪」

シズク 545 「おゆー……♪、おゆー……♪」

シズク 546 「心にどんなモヤモヤがあっても、私にぎゅーってすれば、
ゼーんじが忘れちゃうよ♪ えへへ♪、おゆー……♪」

シズク 547 「（呼吸）……（呼吸）……顔もぼかぼかして、気持ちいいよねー♪」

シズク 548 「♪主人♪ 今度は、すりすり〜ってしてみよ♪」

シズク 549 「猫の気持ちになって、私の胸に、マーキング♪」

シズク 550 「♪主人の匂い、いっぱい付けてほしいなー♪ おねがい♪」

なでなで、すりすり。くすぐったい。

シズク 551 「ん……はあ……あ……えへへ……う……くすぐす♪ ん、気にしないで♪ えへ……私も、ぎゅーってする♪」

【「」から自由に左右ゆらゆら】

シズク 552 「んー……むにゅむにゅー……すりすりー……ん〜……

ん〜……はあ……むにゅむにゅー……柔らかくてー、あつたかくてー、気持ちいい……」

シズク 553 「（呼吸）……よし、よし……甘えん坊でー、かわいい猫さんだねー♪」

シズク 554 「体も、ふにゃふにゃ〜……ちやーんと、リラックス出てるよねー♪」

シズク 555 「むにゅむにゅー……むにゅむにゅー……」

シズク 556 「むにゅ……むにゅ？ えへへ♪ 遊んでない？ ん、気のせいかなー♪」

シズク 557 「むにゅむにゅー……むにゅ〜……くす♪」

シズク 558 「むにゅむにゅ〜……むにゅむにゅ〜」

【「」までゆらゆら】

シズク 559 「えへ、顔が、とろーんってなってるね♪ 私の胸、気に入ってくれた？」

シズク 560 「じゅん♪ 良かった♪」

シズク 561 「そういえばご主人って、どれくらい猫のこと知ってるかな」

シズク 562 「お、自信あり？ じゃあ問題♪」

シズク 563 「仲良しな猫さんと、いつもすること、なーんだ」

シズク 564 「うう、び……ちが、違うよ？ それは、パートナーとするじゃない」

シズク 565 「びっくりし過ぎて答え忘れちゃったよ……」

シズク 566 「えっとー、あ……正解はねー、こっち向いて♪」

《◆正面/Ocm》

シズク 567 「ううやあって、お鼻をくっつけてー、すりすりーってするの」

(『ちゅ』キスではなく、文字通りに喋ります)

シズク 568 「そっ♪ お鼻で、ちゅー♪ ちゅっちゅ♪ ちゅっ

ちゅっちゅー♪ すりすりーっ♪」

シズク 569 「あ、お口でちゅーはダメだよ？ お鼻だけっ」

シズク 570 「ちゅー♪ ちゅっちゅ♪ ちゅー♪ ちゅっちゅ……むちゅ♪」

シズク 571 「くす♪ 顔が近くて、トキトキするね」

シズク 572 「ちゅっちゅ♪ ちゅー♪ ちゅ……ちゅ……ちゅっちゅっちゅ♪」

シズク 573 「んぶんぶん、こうすると、心もぽかぽかしてくるで

っちゅっ♪」

シズク 574 「どっつても、仲良しーって感じ♪」

シズク 575 「このまま深呼吸すると、もっとぽかぽかするよっ♪」

シズク 576 「私と一緒に、深呼吸しよっか♪」

シズク 577 「うん♪ せーのっ」

深呼吸。

シズク 578 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 579 「私とご主人の息が混ざり合って……」

シズク 580 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 581 「お布団の中が、二人の息でいっぱい……」

シズク 582 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 583 「あったかくて、なんだか、甘い匂いもするね……♪」

シズク 584 「すー……はー……すー……はー……すー……はー……すー……はー……」

シズク 585 「こんなにぽかぽかしてる時に、頭をなでなでされたら、
どうなっちゃうかな……」

シズク 586 「なでなで、するね♪ ご主人も良かったら、私のこと、
撫でてほしいな♪」

シズク 587 「うん♪ 一緒になでなでしよ？」

ゆっくり呼吸しながら、心地いい声が漏れる。

シズク 588 「すー……ん、はあ……うう……ん……はあ……」

シズク、だんだん甘えん坊モードに。

シズク 589 「ご主人……はあ……ご主人……好き……」

《◆左耳/0cm そっと抱きつく》

シズク 590 「ん……ご主人……」

シズク 591 「すー……はー……好き……大好きい……」

(『んみゃゝあ』高く甘えた鳴き声)

シズク 592 「んみゃゝあ……んみゃゝあ……♪」

シズク 593 「気持ちいいよ……」

《◆右耳/003へ移動》

シズク 594 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 595 「好きだよ、ご主人……だーいすき……♪」

シズク 596 「んみゃゝあ……んみゃゝあ……♪ ごしゅじーん……大
好きい……♪」

シズク、ふと我に返る。

シズク 597 「ん……あっ」

《◆正面/30cm戻る》

シズク 598 「ごめんね、甘えすぎちゃった」

シズク 599 「ん、大丈夫。また癒してあげるから、こっちおいで♪
ほら、飛び込んでーい♪」

シズク 600 「ん、どうしたの?」

《◆正面やや下/10cm主人公に抱きつかれる》

シズク 601 「う、あ……ご主人?」

シズク 602 「いきなりぎゅってするのは、ビックリしちゃうよ」

主人公、シズクの頭を撫でる。

シズク 603 「はう……なんで、なでなで……うう……私が癒す番だ
よっ。うっ、あ……耳の裏……そこ、気持ちいい」

シズク 604 「はあ……ん……ん……はあ、う……はあ……♪」

シズク 605 「ご主人ってほんと……ん、なでなで、上手だね……
はう……ずるいよお」

シズク 606 「ん……逃げられない……えへ、捕まっちゃった♪」

シズク 607 「ご主人……甘えていいの?」

シズク 608 「ん……じゃあ……なでなで、おねがい♪」

(30秒。気持ちよく撫でられる)

シズク 609 「んっ……はあ……ふう……ん…… (★30秒)」

シズク、幸せで少し涙ぐむ。

シズク 610 「ご主人……ん……ん……はあ……ふう……う……うっ」

シズク 611 「あれ……涙出てきちゃった……ん……」

主人公、そつと頬に手を当てる。

シズク 612 「あ、だめ……指、濡れちゃうよ？ 大丈夫、自分で拭くから」

主人公はそのまま涙をぬぐう。

シズク 613 「ああ……ありがと……でも、指……」

シズク 614 「その指、ちょうだい……♪」

シズク、主人公の指を優しく舐める。

シズク 615 「ん、ああむ……ちゅぷ、ちゅぱ……ちゅぷ、ちゅ

シズク 616 「えへ、きれいにしなきゃ♪」

シズク 617 「はむ、ちゅぱ、ちゅぷ……はあむ……はむ、はむ♪
ちゅぷ、ちゅ……はむ、ちゅ……はあむ、ちゅ

シズク 618 「ご主人の指♪ んぷぷ♪」

(30秒。幸せ指ちゅぱ。少しずつ眠たく)

シズク 619 「ああむ、ちゅぱ……はむ♪ ちゅー、ちゅぱ

(★30秒)」

シズク 620 「(あくび)ん、ふあ〜」

シズク 621 「あ、ご主人もうとうとしてるー」

シズク 622 「んー……このまま、お昼寝するっ。」

シズク 623 「でも、せっかく旅行に来たのに、寝ちゃっていいのかなー……もったいない気がする」

シズク 624 「ん、そっか♪ 旅行は別に、今日だけじゃないもんね」

シズク 625 「来月でも、来年でも……思い出を作る時間は、いっぱいあるから……」

シズク 626 「でもご主人？ その分、お仕事とか頑張らないといけな
いんじゃない？」

シズク 627 「えへへ、頑張れー♪ 私も、頑張るご主人のこと、応援
する。帰ってきたご主人を、おかえりー、ぎゅーって、
っっぽい癒すから」

シズク 628 「……っつもどおり……そばにいさせてねっ」

シズク 629 「っん♪」

《◆正面/10cm》

シズク 630 「じゃあ、おやすみのちゅー♪」

シズク 631 「くす♪ お鼻でちゅーじゃなくてー、こっち」

《◆正面/0cm》（本当のキス）

シズク 632 「ん……ちゅっ」

シズク 633 「えへ、もう一回♪ ん〜、ちゅっ♪」

シズク 634 「お鼻くっつけたまま……おやすみ、ご主人♪」

（90秒。優しい寝息）

シズク 635 「すー……すー……（★90秒）」

（06-END 3290文字 120秒）

夜ご飯を食べ終わった二人。

シズクはとっても満足な様子。

《◆正面/30cm》

シズク 636 「こちそーさまあ♪」

シズク 637 「はあ〜、お腹いっぱい♪」

シズク 638 「うん♪ 大満足♪」

シズク 639 「マグロもいっぱい食べちゃったしー」

シズク 640 「あとはー、あれ、小さいお鍋♪ そうそう、下に火をつけるやつー! あれいいよね〜♪」

シズク 641 「目の前でグツグツって煮立って、いい匂いを独り占め出来るの♪」

シズク 642 「はあ〜……美味しかったあ……♪」

シズク 643 「想像したら、またお腹空いてきた」

ほんど？

シズク 644 「あ、冗談だよ? さすがにもう食べれないってー、えへ〜」

しばし間。

シズク 645 「んー……でも、ちよーっとだけ、口が寂しいかも」

シズク、口を寂しそうにすぼめる。

(何かを探すように周りを見る)

シズク 646 「ちゅ、ちゅ、ちゅ……ちゅ、ちゅ、ちゅ……」

シズク 647 「ツナクリーム……は、怒られちゃうなー」

シズク 648 「あつ、そういえば飲み物出されてたよねっ」

シズク、トツクリを手取る。

シズク 649 「これこれ♪ お酒♪」

シズク 650 「足湯に入りながら、ちびちび飲むといいんだって♪ 宿の人が言ってた♪」

シズク 651 「うん……で、肝心の足湯は……なんと、この部屋のベランダに付いてるんだってー♪」

シズク 652 「知ってた？」

シズク 653 「くす♪ 私もさつき知ったー♪」

シズク 654 「ちょっと見てみようよ♪ 行こ行こ♪」

二人、ベランダへ。

シズク 655 「あ、これのことかな」

シズク 656 「家のお風呂と同じくらいの大きさだね」

シズク 657 「何か書いてある」

シズク 658 「なにになに? 『ボタンを押すと、温泉が流れます。のんびりと足湯をお楽しみください』」

シズク 659 「おぉー♪」

シズク、目をキラキラさせながらにじり寄る。

《◆正面/10cm にじり寄る》

シズク 660 「ご主人♪ ボタン押したい! とっても押してみたい! うーっっ。」

《◆正面/30cm》

シズク 661 「よーっっ♪ えいっっー。」

ピッ。

湯口から温泉が流れ出る。

シズク 662 「おお〜♪ ほんとに出てきたあ。すごい♪」

シズク、じーっと流れるお湯を見る。

シズク 663 「おおー……おお〜……」

シズク、流れ落ちるお湯にネコパンチ。

シズク 664 「んっ、んっ……えいつ、えいつ……えいつ、えいつ♪
くす♪ んっ、んっ……んっ、んっ♪ んっ、んっ♪」

やめてね。

シズク 665 「んあ、危ない？ はい」

《◆右/30cm 主人公の隣に座る》

シズク 666 「ふう、お湯が溜まるまで待たなきゃだね」

シズク 667 「……ご主人、寒くない？ くっっこ♪」

《◆右/10cm 寄り添う》

シズク 668 「（呼吸）……（呼吸）……」

夜の風。鈴虫の音。

シズク 669 「お空、きれいだね」

シズク 670 「きぶきぶーって、星がいつぱい」

シズク 671 「んー……空ってこんなに綺麗だったっけ」

シズク 672 「うん。夜の空って、もっと寂しかった気がする」

シズク 673 「なんにも見えないし、窓から覗くと『あーあ、また一日
が終わっちゃったなー』って気持ちになるの」

シズク 674 「でも、この空は、なんだかワクワクする♪」

シズク 675 「旅行も今夜で終わりだし、寂しいはずなのに……とって
もいい一日だったなーって♪ くす♪ ご主人と、この空
を見て良かったって、気持ちになる♪」

シズク 676 「はあ……ほんとに綺麗……♪」

シズク、空に手を伸ばす。

シズク 677 「んー……はあ」

シズク 678 「えへへ♪ こんなにキラキラしていると、なんだか掴めそ
うだよね」

シズク 679 「んー……はあ」

シズク 680 「ご主人なら届くかな」

シズク 681 「ほら、一緒に♪ んー……あはは♪ 腕ながー
ら♪」

シズク 682 「私も負けないよー？ んー……あはは♪ やっ
ぱり届かないかー」

シズク 683 「いいよ♪ 別に届かなくても」

シズク 684 「その代わりに……ご主人のながーい腕で、私のこと、
ぎゅってしてほしいな……なんて」

《◆右/Com さらに寄り添う》【二〇〇から小声】

シズク 685 「えへ、ありがとう」

シズク 686 「（呼吸）……あったかい♪」

シズク 687 「（呼吸）……（呼吸）……」

シズク、主人公の目をじーっと見つめる。

シズク 688 「んー……んー……んふふ」

シズク 689 「んー？ ご主人の目、すっごく綺麗♪」

シズク 690 「じゅん♪ 星がいつぱい映っている♪」

《◆正面/100cm 向かい合う二人》

シズク 691 「すーい……♪」

シズク 692 「え、私も？ ほんと？ えへへ、おそろいだね♪」
しばし間。

シズク 693 「ん……なんだか、近くない？」

シズク 694 「（呼吸）……そんなに近くで、星が見たいの？」

シズク 695 「くすっ……いいよ♪ もっと近くで……」

《◆正面/0cm 近づく》

シズク 696 「もっと……もーっと……♪」

口づけ。

シズク 697 「ん、ちゅ……ちゅ……ちゅっ……♪ ん……ちゅ……

ちゅー……ちゅー♪」

シズク 698 「くす♪ ご主人♪ 目つむったら、星が見えないで
しゅっ♪」

シズク 699 「んー、ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅっちゅ……

ちゅー♪」

シズク 700 「（照）んふふー♪」

お互い、嬉し恥ずかし。

《◆正面/30cm》【「リ」から普通の音量】

シズク 701 「えっとー、お湯たまるの遅いねーっ！ どうしよっ
かー」

シズク 702 「あ、そうだよ、ちよっと待ってー♪」

シズク、室内に入って何かを取る。

「こちらに戻ってくる。

シズク 703 「じゃーん♪ 耳かきー♪」

シズク 704 「こういう時のために、バッグに入れといたんだ〜♪」

シズク、太ももをぼんぼん。

シズク 705 「主人はー、ここ♪ 私の太ももに、ごろーんてして？
耳かきするー♪」

シズク 706 「ほーらあ、遠慮しないで♪」

《◆右耳/30c≡膝枕》

シズク 707 「ろーん♪ もふもふー♪」

シズク 708 「ティツシユはーっと……あつたあつた」

シズク、ティツシユを数枚取る。

シズク 709 「じゃあ、始めるよー？」

シズク 710 「それ〜♪」

(20秒。耳かきアドリブ。呼吸メインで、時折『ああ』『ん〜』といった声が漏れるイメージ)

シズク 711 「(★20秒)」

シズク 712 「ふふー♪ 今日は逆だねー♪」

シズク 713 「膝枕っ」

シズク 714 「いつもは私がご主人のヒザに寝てるから……」

シズク 715 「えへへ、どーお？ ふにふに？」

シズク 716 「まだまだ運動不足だからね。私の太ももはー、マシユマ
ロみたいに、やわやわなんです〜♪ くす♪」

(30秒。耳かき)

シズク 717 「(★30秒)」

シズク 718 「んー……運動はねー、半分諦めたっ」

シズク 719 「やめたわけじゃないよ？」

シズク 720 「半分っていうのは……こう、筋肉をつけるのは、諦め
たって感じ……うん」

しばし間。

シズク 721 「もう半分？ くす♪ ご主人なら分かるんじゃない？」

シズク 722 「運動した後に食べるご飯は、すごい美味しいんだ
よー。」

シズク 723 「おっきいハンバーグも食べたいし……ツナクリームも、
ちゅーちゅー吸いたいしー」

シズク 724 「だから、頑張る♪」

シズク 725 「ジヨギングもする……なわとびもする……あとは、腹
筋とか？」

しばし間。

シズク 726 「あ、今度付き合っつてよ♪ ご主人が足を押さえて、私
は腹筋♪」

シズク 727 「いつもは4回くらいしか出来ないけど……ご主人に
応援してもらえば、5回に増えるかも♪ くすくす♪」

シズク 728 「うーちゅ……にーい……さーん……よーん……
」おおおー」

シズク 729 「うう、想像したただけでお腹痛くなってきた」

シズク、自分のお腹をぽんぽん。

シズク 730 「うー」

耳かき再開。

シズク 731 「ん、大丈夫♪ 続きするねー」

(40秒。耳かき)

シズク 732 「(★40秒)」

- シズク 733 「ねえご主人、私の浴衣姿、似合うかな」
- シズク 734 「えへへ♪ 嬉しい♪」
- シズク 735 「頑張ってる着てみて良かった♪ すぐ崩れちゃったけどー」
(20秒。楽しそうに耳かき)
- シズク 736 「(★20秒)」
- シズク 737 「ご主人はどっちが好き？ 浴衣の私と、シャツの私♪」
- シズク 738 「どっちも？ えー、ぜいたくう」
- シズク 739 「でもでも、ご主人って私がどんな服着ても、変なところ見てないっ。」
- シズク 740 「どっっって、ほら……色々♪」
- シズク 741 「ん、ごまかさないでよー♪ 見てるでしょ？」
- シズク 742 「胸とかー……太ももとかー」
- シズク 743 「シャツ一枚で過ごしてる時は……私が座っていると、足の間から、あそこも見えてるのかなー♪」
- シズク 744 「えへへ♪ バレバレだよー♪ 目をそらしてるフリして、ちらちらごっつん♪ くすくす♪」
- シズク 745 《◆右耳/10cm 『鋭いんですよー』で近づくと》
「そっつんごっつん、猫は鋭いんですよー♪ うひひー♪」
- シズク 746 《◆右耳/30cm》
「あ、ごっつん、動かないのー♪ 奥も綺麗にするよー？」
(20秒。楽しそうに耳かき)
- シズク 747 「(★20秒)」
- シズク 748 「んー……私の体ってそんなに良いのかなあ」

シズク 749 「んまあ、私もご主人の手のひらが好きだし、そういうモノなのかな」

シズク 750 「うん。好きだよ？ ご主人の手を見てるとー『あゝ、なでなでされたあい♪』ってなる」

シズク 751 「ドキドキもしちゃう」

シズク 752 「……今だって、太ももに手乗せてるでしょ？」

シズク 753 「うん……す「い、ドキドキしてる……♪」

(30秒。耳かき。ドキドキ)

シズク 754 「(★30秒)」

シズク 755 「太もも……なでなで、してほしいかも……えへ」
なでなで。

(30秒。耳かき。時折、心地よさそうな声)

シズク 756 「(★30秒)」

シズク 757 「綺麗になったかなー」

シズク 758 「んじや、お耳ふーってするね♪」

《◆右耳/10cm》

シズク 759 「ふー……」

シズク 760 「ふっ、ふっ……ふー……」

《◆右耳/30cm》

シズク 761 「よし♪、じゃあ反対のお耳もするよー♪、ころーん♪」

主人公、左耳を上に向ける。

《◆左耳/30cm》

シズク 762 「にっちも綺麗にするねー♪、それー♪」

(20秒。耳かき)

シズク 763 「(★20秒)」

シズク 764 「耳かき、上手でしょ♪ いっぱい勉強してるからねー」

シズク 765 「うん♪ 本とか、パソコンとか……部屋にあるものなら、なんでも勉強に使うよ?」

(10秒。耳かき)

シズク 766 「(★10秒)」

シズク 767 「だから、部屋に置くものは、気を付けたほうがいいよー?」「ご主人が好きな事、どんどん出来るようになってっ
ちやう」

シズク 768 「ご主人は耳かきも好きだし……こうやってー」

《◆左耳/10cm 不意打ち耳ふー》

シズク 769 「ふー……ってされるのも、好きだよね♪」

《◆左耳/30cm》

シズク 770 「あはは♪ ビックリした?」

シズク 771 「ごめんね♪ やりたくなっちゃった♪」

シズク 772 「はーい、続きします♪」

(30秒。楽しそうに耳かき)

シズク 773 「(★30秒)」

シズク 774 「ご主人、顔がふにゃふにゃってなってる♪」

シズク 775 「さっきの耳ふー、結構効いたのかな♪ えへへ♪」

シズク 776 「そんな顔されたら、嬉しくなっちゃう♪」

シズク 777 「うん♪ ご主人が、ちゃんと癒されてるんだなあっ
っ♪」

シズク 778 「頑張って勉強したかいがあるよ♪」

- シズク 779 「もっと、耳かきするね♪ ご主人♪」
(40秒。楽しそうに耳かき)
- シズク 780 「(★40秒)」
- シズク 781 「ご主人の手のひら、あったかい♪」
- シズク 782 「なでなでー……すりすりー……私の太もも、いっぱい
あっためて欲しいなー♪」
- シズク 783 「あ、くすぐるのはダメだからねー？ くす♪」
(40秒。時折、心地よさそうな声)
- シズク 784 「(★40秒)」
- シズク 785 「えへへ♪ 膝の上って気持ちいいよね」
- シズク 786 「私の膝枕、気に入った？」
- シズク 787 「んふふ♪ 良かったらさ、ご主人がお昼寝したい時、私
の太もも、貸してあげよっか♪」
- シズク 788 「ああでも、それだと、私が寝れないね」
- シズク 789 「どうしよ」
(10秒。耳かき)
- シズク 790 「(★10秒)」
- シズク 791 「ご主人の頭が、私の太ももに来てー」
- シズク 792 「私の頭が、ご主人の太ももに来てー」
- シズク 793 「こっ……向かい合って寝ればいいのかな」
- シズク 794 「んー……なんだか不思議な体勢だね」
- シズク 795 「今度試してみる？」
- シズク 796 「や……やめとこっか」
- シズク 797 「奥のほうも、綺麗にするねー」

(40秒。集中して耳かき)

シズク 798 「(★40秒)」

シズク 799 「あ、お湯そろそろたまったかな」

シズク 800 「お酒飲むの、楽しみだねー」

シズク 801 「どんな味がするんだろ」

シズク 802 「苦いって聞いたことはあるけど、飲んだら楽しい気分になるんだよねっ。」

シズク 803 「公園でよく会う猫さん達も、みんなお酒が好きなんだよね。」

シズク 804 「お嬢様の家に住んでる猫さんも、ワインが好きなんだってー♪ オシャレだよね〜」

しばし間。

シズク 805 「あれ？ ワインじゃなくて、ビールが好きなんだっけ……あ、これって……えへへ、なんでもなーい♪」

(30秒。楽しそうに耳かき)

シズク 806 「(★30秒)」

シズク 807 「よし♪ こっちも終わりー♪」

シズク 808 「じゃあ、ふーっつするね♪」

《◆左耳/10cm》

シズク 809 「ふっ、ふっ……ふー……」

シズク 810 「ふー……ふー……」

シズク 811 「くす♪ もっとするっ。」

シズク 812 「じゃあ、あと一回」

シズク 813 「ふっ、ふっ、ふー……」

シズク 814 「ふー……」

《◆左耳/30cm》

シズク 815 「はい、おしまいな」

シズク 816 「うん♪ どういたしましてー♪」

シズク 817 「さてと♪ お待ちかねのー」

《◆左耳/10cm》

シズク 818 「足湯の時間だよー♪」

(07-END 3250 文字 410 秒)

湯の流れる音、鈴虫の音。

二人は足湯でほのぼの。向かい合って座っている。

主人公、シズクにお酒を注ぐ。

《◆正面/30cm》

シズク 819 「あ、ありがとー、ととととと♪」

シズク 820 「おお、これがお酒……ちよっと緊張する」

シズク 821 「えっと、『乾杯』って言うんだっけ……じゃあ、かん

ぱーい♪ えへへ♪」

一口だけ。

シズク 822 「んく……あ、美味しい♪」

一気に飲み進む。

シズク 823 「んく、んく、んく、んく……ぶあ〜♪」

シズク 824 「これ、飲みやすいね♪」

シズク 825 「うん♪ 甘くてー、でもちよっと苦くてー、癖になる味♪」

シズク 826 「ご主人、もう一杯ちようだいっ」

シズク 827 「ん、飲むペース早い？ 大丈夫、次はゆっくり飲むから♪ ちよーだい♪」

主人公、シズクにお酒を注ぐ。

シズク 828 「ありがと♪」

シズク 829 「んく、んく……ぶっ」

シズク 830 「んー、なるほどねー♪ 猫さんがみんな好きになる理由、分かった気がする」

シズク 831 「うん。人間になったら、お酒は一回飲んだほうがいいよーって、猫の間で噂になってるの」

シズク 832 「んく、んく……はあ♪ 確かに、これは絶対飲まなきゃダメだねー♪ えへへ♪」

シズク 833 「んー、でも、このお酒、なんだか懐かしい味がするようなー……なんだっけ、これ……んー」

シズク 834 「まあいつか」

シズク 835 「んく、んく、んく……ふあーい♪」

シズク 836 「ほら、ご主人も飲んで♪ 入れてあげる♪」

数十分後。

シズク、ほろ酔いになって優しい猫なで声に。

シズク 837 「んく、んく……はあ♪ しやーわせえー♪」

(左右にゆらゆら)

シズク 838 「んく……んく……んへへ……体、ふわふわするう♪」

シズク 839 「気持ちいい♪ あははは♪」

シズク 840 「んー?」

《◆正面/10cm 前かがみになって近づく》

シズク 841 「私は、大丈夫だよおー? みやあ♪ えへへ♪」

《◆正面下/30cm そのまま下へ》

シズク 842 「とういかー……ご主人、こういうパンツ履いてるんだく……えへへ♪ ふっー♪」

シズク 843 「くす♪ 今更隠そうとしないでよ♪」

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 844 「向かい合って座ってるんだし、最初から見えてたよ？」

シズク 845 「んく、んく……はあ♪ えへへ」

シズク 846 「ご主人も見えてるでしょ？ 私の、浴衣の中♪」

シズク、わざと浴衣をめくる。

シズク 847 「ちざっ……ちざちざっ♪」

シズク 848 「うん、履いてないよー？」

シズク 849 「あ、だから目そらしてるのー？ 好きに見てもいいの
にっ♪」

《◆正面/10cm 前かがみになって近づく》

シズク 850 「この後だって、私のこと、好きにするんでしょ♪ う

ふふーっ♪」

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 851 「うう、反応悪いな〜！ ちょっと恥ずかしいじゃんっ」

シズク 852 「んく、んく……ふっ」

足ゆらゆら。

シズク 853 「んー……あったかあい」

シズク 854 「あったかい、けど……熱くなってきた」

しばし間。

シズク 855 「んねえご主人。良かったら、マッサージしてくれない？

足裏♪」

シズク 856 「ご主人の手でマッサージされたら、絶対気持ちいいよ
ね」

シズク、片足を上げておねだり。

シズク 857 「こしゅじーん、おねがぁい♪ わきわき♪」

シズク 858 「おねだりの、足指ぐーぱー♪ ぐー、ぱー、ぐー、

ぱー……足のマッサージ、お願いしまーす♪」

主人公、トックリを置いてシズクの足に手を伸ばす。

シズク 859 「あ、ありがとー♪」

主人公、シズクの足を揉む。

シズク、くすぐったくて声が出る。

シズク 860 「ふう……ん……ん、あ……はあ……。いひ……んっ……

あはっ……ん、ふう……んっ……くす♪ んう……ん、

あっ……あはは♪」

シズク 861 「こ主人に触られてると……ん……足の指、勝手にぐー

ぱーしちゃう……はあ……ん……ん、あ、指はダメ♪ え

へ、あはは、くすぐったいってば♪ あはは♪ あはは

は♪」

シズク 862 「あーわざとくすぐってるでしよー♪ くすくす♪ 引っ

かくよーっ。」

シズク 863 「うん、足で引っかく！ 出来るか分かんないけど」

シズク 864 「ほら、ちゃんと揉んで？ きゅっきゅって」

気持ちよさそうな色っぽい声に変わる。

シズク 865 「んっ……んあ……ん、痛くないよ……そんな感じ……

んっ、んっ……はあ、ん……親指で、押し込んで……ん、

ん……あっ……気持ちこころ」

シズク 866 「んっ、ん……それぐらいが、んっ、丁度いいかも」

(20秒。気持ちよさそうな声)

シズク 867 「んあ……んっ……はあ……んっ (★20秒)」

シズク 868 「ご主人じょうず♪」

(20秒。気持ちよさそうな声)

シズク 869 「(★20秒)」

シズク 870 「くす♪ 顔赤くなってる♪ んっ、あ……んっ……どうしたのー?」

シズク 871 「ん、お酒のせい? くす♪ ほんとかなあ♪」

シズク、足を入れ替える。

シズク 872 「まあいいや♪ こっちの足も、おねがい♪」

シズク 873 「んっ……はあ、うう……ん……あっ、んっ♪ はあ……

ふう、んっ、はあ」

シズク 874 「ツボって言うのかな……んっ、押されると気持ちいいところがあるんだよねえ」

シズク 875 「ああ♪ そう、そこが気持ちいい♪ ん……ん♪

ああ♪」

シズク 876 「んあうっ! そこは、変な声が出ちゃうツボだね。やめたほうが」

ツボを押されて変な声。

シズク 877 「ん……んあうっ! んおう? お、おおお? あああ

あっ」

シズク 878 「ご主人っ、蹴るよ!? ほんとに蹴るよ!?」

シズク 879 「もー、かわいいじゃなくて、真面目にやっつ」

シズク 880 「ほら、おねがい?」

普通のマツサージに戻る。

シズク 881 「ん……んっ、あゝ んう……ん、んっ♪ えへへ♪ きもちい♪ あう……うう……はあ……ん……ふう」

シズク 882 「くす♪ ご主人って、私の足、好きだよねー♪」

シズク 883 「えー？ 私が猫だった頃、よくぷにぷにーってしてきたじゃん♪ いひひ、ちゃんと言えてるよ♪」

シズク 884 「んっ……肉球って言うんだっけ。あれ、結構くすぐったいんだよー？」

シズク 885 「隙を見せたらいつつもぷにぷにしてくるさー♪ 私がちょっと嫌がってたの、気づいてたくせに〜♪ くすくす♪」

シズク 886 「んく、んく……ぷあ〜♪」

《◆正面/10cm 前かがみになって近づく》

シズク 887 「そんなに足が好きならあ……くんくんとか……してみろ〜」

シズク 888 「ほら……いつも私がくんくんしてはっかだしー、たまには「ご主人も、私の事くんくんしてもいいんじゃない？」

シズク 889 「猫にとつてくんくんは、信頼の証なんですよー♪ くす♪」

シズク、足を差し出す。

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 890 「ほら♪ 足裏くんくん♪ おねがはい、ご主人♪」

主人公、恐る恐る顔を近づける。

シズク 891 「あ……ああ」

シズク 892 「えへへ、息当たってる……ん、あはは♪」

シズク 893 「あ……ん……ああ……あ」

シズク 894 「なんだか、いけないことしてるみたい……ん、はあ……大丈夫……これは、『ごみゆにけーしょん』だからねっ」

シズク 895 「ん……はあ……ずっと温泉に入ってたから、汚くないはず……ん……びしょびしょだけどね」

シズク 896 「はあ、うう……あ……あう……ん、ああ……はう、んっ……んあ」

シズク 897 「温泉の匂い？ お日様の匂い？ えへ、なにそれ♪
んっ……いい匂いってこと？ えへへ……顔見ながら言わないですよ♪」

(だんだん恥ずかしくなってくる)

シズク 898 「あ……ああ、んっ……ご主人？ ん……さすがに、近すぎない？ あうう……待って……あ、ああ……あっ……はあ……ん、はあ」

シズク 899 「ん、そろそろ……はあ、そろそろ、いいんじゃない？」

シズク 900 「ん、え……もつと？ ん、ああ……ご主人？ もしかしなくても、酔ってるよね……んっ……くくんしすぎは、ダメだよお……ん……はあ……はあ」

シズク 901 「んえ？ ほっぺ赤い？ あ……ん、違うよ？ これは、んっ……お酒のせいっ……そう、お酒のせい……んっ……ほんとだってばあ」

シズク 902 「はあ……あっ……ご主人……そんなにくんくんしたら……あ……ああ……あっ」

シズク、あわてて足を湯舟に戻す。

シズク 903 「だ、だめっ……もうおしまいっ」

シズク 904 「今日の分はおしまい……ふう……また明日どーぞお」

シズク 905 「うう……お酒お酒」

シズク 906 「んく、んく、んく……はあ……ふう」

シズク 907 「あ……あれ？ ご主人、もしかして♪」
シズク、主人公の浴衣をめくる。

《◆正面下/30cm》

シズク 908 「あ、隠しちゃだーめ♪ 見ーせて♪」
シズク 909 「あは♪ おっきくなってるー♪」

(左右にゆらゆら、見回す)

シズク 910 「すーい♪ パンツの上からでも、元気なのが分かる
よ♪」

シズク 911 「つんつん♪ つんつん♪ えへへ♪ なんでおっきく
なっちゃったのかなー♪ ん〜」

シズク 912 「(右へ)匂い？ (左へ)足の感触？ それとも」

《◆正面/10cm》

シズク 913 「私、そんなにエッチだった？ くす♪」

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 914 「恥ずかしいなら答えなくてもいいよ♪」

シズク 915 「こうなっちゃったのは、誘った私のせいもあるし♪」

シズク 916 「私が責任持ってー、気持ちよくしてあげる♪」

シズク、足を上げて誘惑。

シズク 917 「ご主人の大好きなー、足裏でいいかな♪」

シズク 918 「えへへ♪ 見てー？ 温泉でぽつかぽかだからあ、ふわ
ふわしてて、とっても気持ちいいと思っつよっ♪」

シズク 919 「あ、おちんちんピクってした♪ 期待してるんだー♪」
シズク、主人公の股間に足を置く。

シズク 920 「いいよ♪ おちんちんにお布団を被せるみたいに……
足裏で、ふ〜ん♪」

- シズク 921 「ぼかぼか、ぬくぬく♪ 足裏であったまろうね♪」
下着越しに足でこする。
- シズク 922 「ん、ん、んっ……んふふ……硬あい♪ ん〜……ん、んっ♪ ん、んっ……ん、ん、はあ♪」
- シズク 923 「あ、パンツ？ あっへへ、脱がし忘れちゃったあ」
- シズク 924 「大丈夫、替えはあるでしょ？ もう濡れちゃったし、このまましてみよっか♪」
- シズク 925 「ん、ん、んっ♪ ほら♪ パンツ越したと、おちんちんこすれて、気持ちいいでしょ〜」
- シズク 926 「ん、ん♪ ずり、ずり♪ ふにゆ、ふにゆ♪ ずりゆ、ずりゆ♪ ずりゆ〜♪ んっ、んっ♪ はあ、はあ♪」
- シズク 927 「知ってる？ 猫がご主人を、『ふみふみ』ってするのはねー……んっ、ご主人に、いっぱい甘えたいからなんだよ〜」
- シズク 928 「えへへ♪ ほんとだっば♪ んっ♪ ご主人のことが好きだからあ……ん、構ってほしくて、『ふみふみ』するの〜」
- シズク 929 「ん、んっ♪ 右足で強めにふみふみしたほうがいいかなー……ん、ん、んっ♪ はあ、ん、んっ♪」
- シズク 930 「ずり、ずり♪ ふみ、ふみ♪」
- シズク 931 「気持ちいい？ ん、えへへ♪ でも、あんまり動いちゃダメだよー？ ん、ん♪ 足裏のお布団から、逃げちゃダメ♪」
- シズク 932 「ん、んあ、ん、んっ♪ はあ、ん、んっ♪ ふう、ん、んっ♪」

シズク、足を入れ替えて左足で撫でる。

シズク 933 「今度は左足ー♪」

シズク 934 「ん、んっ♪ ん〜……左足は、んっ、ちょっと不器用かも……んっ……ん、ん、あっ、おちんちん逃げちゃう……んしょ……えへへ♪ ん、ん、んっ♪ はあ、う、ん♪」

シズク 935 「ご主人はー、右足と、左足……んっ、どっちが好きー？ん、んっ♪」

シズク 936 「えへへ♪ 言っと思ったく♪」

シズク 937 「いいよ♪ 今度は両足一緒に、えいっ♪」

両足で優しくこする。

シズク 938 「んあ、んっ、んっ♪ はあ♪ ん、ん、んっ♪」

シズク 939 「あはっ、おちんちんすごーい♪」

シズク 940 「見てーご主人♪ びしょ濡れのパンツがー、ぴたあーっで張り付いてー、んっ♪ おちんちんの形、浮き上がってる♪」

シズク 941 「はあ、んっ……くす♪ おちんちん、どんどん大きくなってるの、んっ、パンツの上から、バレバレだね♪」

シズク 942 「はあ、はあ♪ そんなに気持ちいいんだ〜♪」

シズク 943 「ん、んう、ん、んっ♪」

シズク 944 「腰も動いちゃって……ん、それだと、足裏におちんちん」すりつけてるみたいだよっ。」

シズク 945 「あははっ♪ くすぐりたいよおご主人♪」

シズク 946 「ん、えへへ♪ 腰、勝手に動いちゃうの？ くす♪
そっかそっか♪ 気持ちいい証拠だねー♪」

シズク 947 「ららめ♪ 私の足」、もっと甘えっ♪」

シズク 948 「はあ、腰を動かして、足裏に、おちんちんでおねだりするの♪」

シズク 949 「はあ、ん、んっ♪ ふう、んっ、んっ♪」

シズク 950 「その調子、その調子♪」

シズク 951 「私の足、あったかい？ んっ……温泉であったためた足だもん♪ はあ……ぼかぼかで、びしょ濡れの生足♪ なでなでされて、おちんちんも喜んでるね♪ はあ、はあ♪」

シズク 952 「足の感触でよく分かるよ♪ ビクンビクンって♪ すっっっっ喜んでる♪」

シズク 953 「私の足で、おちんちん、喜んじやってる♪ えへへ♪」

シズク 954 「ん、はあ、はあ♪ ん、ふう、はあ、はあ♪」

シズク 955 「おちんちん♪ はあ♪ おちんちんすごい♪ ん♪ はあ、ん、ん♪ ふう、ん、んっ♪」

シズク 956 「でも、さすがに苦しそうだね。パンツ脱いじやおつか」

シズク 957 「ご主人、ちょっと足閉じて？」

シズク 958 「このまま脱がせるかなー」

シズク、主人公の下着を脱がす。

シズク 959 「パンツを両足で掴んでー……んっ……んしょ♪」

シズク 960 「よし♪ 足で脱がせたー♪ どーお？ 器用でっしょ♪」

シズク 961 「ん、なーに？ おちんちん寒い？ くす♪ 分かってるっしょ♪」

シズク、足を湯舟で泳がせる。

シズク 962 「ちよっと待っててねー♪、ぢぢーん♪、ばしちば

しちやー♪、足湯でよくあったためてー……んっ」

両足を湯舟から出す。

シズク 963 「はい♪ 見てー？ 両足、ぽかぽかになったよ♪」

シズク 964 「シズクの足で、あったまる？」

シズク、両足で男性器を挟む。

シズク 965 「寒がりなおちんちんをー、あったかあい生足でー……

ぱつくん♪ えへへ♪ 食べちゃった〜♪」

シズク 966 「じゃあ、動かすよー？」

足で扱っていく。

シズク 967 「ん、んっ♪ はあ、んっ♪」

シズク 968 「ぽかぽかで、柔らかかあい生足のサンドイッチ♪

はあ……足裏の感触も、直接だとよく分かるかな♪ はあ、
はあ♪」

シズク 969 「ぶにぶにで気持ちいい？ えへへ♪ ご主人がマッサージー

ジしてくれたから、こんなに気持ちいい足になったんだ

よー？ ありがとうー♪ ご主人♪」

シズク 970 「はあ、ん♪ よーくほぐれた、ふわふわで、ちょっと運

動不足な、私の生足♪ いっぱい味わってねー♪」

シズク 971 「はあ、はあ♪ しゅじ、しゅじ♪、しゅじしゅじー♪

しゅじしゅじ♪、しゅじ、しゅじ♪」

シズク 972 「えへへ♪、しゅじしゅじしゅじ♪」

(シズクの発情がどんどん露骨になっていく)

シズク 973 「私の足、もっと好きになっちゃおう？」

シズク 974 「えへ、いいよー♪ 大好きになってよ♪、んっ、ご主人

が癒されるなら、毎日ぶにぶににしてもいいかな♪」

シズク 975 「はあ、はあ♪ ご主人が発情したらあ、手でも、足でも、んっ♪ どごでも使ってー……ご主人の事、気持ちよくしたあい♪」

シズク 976 「はあ、ん、んっ♪ ふう、う、ん、んっ♪」

シズク 977 「でもご主人はー、私のおそこも好きなのかなー♪」

シズク 978 「えへへ♪ 見えてるでしょー？ 浴衣の中♪ んっ♪

太ももの間のー、割れ目♪」

シズク 979 「足ひらいてるから、んっ、全部見えてる♪ はあ、ん、んっ♪」

シズク 980 「ねえ」しゅじーん♪ この後どうするー？ はあ、交尾、するっっ♪」

シズク 981 「ん、んっ♪ えへへ♪ 私もしたあい♪」

シズク 982 「はあ♪ あそこ、もつと見てえ♪ ん♪ おちんちんふみふみしてたらあ、こんなに濡れちゃったのお♪ はあ、はあ♪」

シズク 983 「両手で広げてー、ん♪ はうっ♪ はあ、ん♪ ご主人、見えるっ？ ほら♪ 中もとろとろだよお？」

シズク 984 「はあ、あん♪ ご主人と交尾、すごい楽しみでえ、んっ♪ ずーっとウズウズしてるのお♪」

シズク 985 「交尾い、交尾したあい♪」

シズク 986 「ん、ん、あっ♪ じーっと見ちゃって、くす♪ ご主人のエッチ♪」

シズク 987 「この硬あいおちんちんで、私のこと、襲っちゃうの？」

シズク 988 「くすくす♪ だーめ♪ 私が先にい、足で搾っちゃいませーす♪」

シズク 989 「えへへ♪ その顔、もう我慢出来ないんでしょー？ 出しちゃえ出しちゃえ♪ 足、速くするよー？」

シズク、足で早く抜く。

シズク 990 「は、は、ん♪ はあ、んっ♪ は、あ、あ、あっ♪

はあ、ふう、ん、んっ、はあ♪」

シズク 991 「早くしゅこしゅこしたら、勢いよく出ちゃうのかな♪」

シズク 992 「はあ、ん、んっ♪ 私の体まで、びゅーって飛んできた

りして♪」

シズク 993 「くす♪ どーお、ご主人♪ 私の体まで、飛ばしてみ

るー?。」

シズク、陰部を見せつける。

シズク 994 「えへへ♪ じゃあ、こーこ♪」

シズク 995 「あそこ、広げたままにするからあ、ここが当たりだ

よー♪」

シズク 996 「私の大事なところ、ご主人の匂いで、マーキングしてほ

しいなー♪ はあ、ん、んっ♪」

シズク 997 「あは♪ おちんちん、やる気いっぱいだね♪ 頑張れ頑

張れー♪ いっぱいマーキングして♪ 私にあそこに、

びゅっぴゅーだよお♪」

シズク 998 「はあ、はあ、ん、ん、んっ♪」

シズク 999 「私も、あそこヒクヒク止まんない♪ かけられちゃう♪

」ご主人にいっぱいかけられちゃう♪」

射精へ。

シズク 1000 「はあ、はあ♪ 私にぴゅっぴゅ♪ いっぱいぴゅっ
ぴゅ♪ 頑張ってる♪主人♪ かけて♪ 白のいっぱい
かけて♪ はあ、はあ♪ 出る、出る、出ちゃう、出ちゃ
う♪ かけて♪ かけて♪ おねがい♪ 私に、いっぱい
かけてえ♪」

シズク 1001 「(射精)は、あっ♪ あ、ああ♪ あ、あ♪ すっ♪
ああ、熱い、あ、ああ♪ ん、あ、ああ♪」

シズク 1002 「目つむっちゃダメ♪ 私を見て♪ もっとかけて♪
はあ、はあ♪ えへへ♪ ほっ♪ っっぱい♪ はあ、
もっと♪ もっとお♪」

勢いが収まっていく。

シズク 1003 「はあ、はあ……あ、あっ……ぴゅっぴゅー……ぴゅっ
ぴゅー……まだ出てる……すっーい……はあ……はあ」

シズク 1004 「全身、マーキングされちゃった……えへへ♪」

シズク 1005 「足裏も……太ももにも♪ あそこも、ぐっちよぐちよ
シズク、体についた液体を取って少し舐める。

シズク 1006 「ん……はあむ……ちゅ……ちゅぱ」

シズク 1007 「くす♪ ごしゅじーん、こんなに濃いの出して、あとで
交尾出来るのー?」

シズク 1008 「ん、聞いているー?」

ぐったりする主人公に、シズクが呼びかける。

《◆正面/10cm》

シズク 1009 「(左)ごしゅじーん、(右)大丈夫ー?」

シズク 1010 「あー、だいじよばないねー」

シズクニニ 「あはは……足だと加減しづらいね……搾りすぎちゃっ
た」

(08-END 5262文字 40秒)

深夜、静かな寝室。

いつもと違う布団の上で、二人は寄り添い、ひそひそと言葉を交わしている。

《◆正面/30cm》

シズク 1012 「うん、大丈夫」

シズク 1013 「まだちょっと、ふわふわしてるけど」

シズク 1014 「はあ……ふう……」

シズク 1015 「さっきのお酒、よく見たら……またたび入ってた」

シズク 1016 「うん……ドキドキしてるのって、そのせいかな……

はあ」

シズク 1017 「お水も飲んだんだけどね……ふう」

シズク 1018 「ご主人……落ち着くまで、ぎゅーってさせて?」

シズク、胸の中でもぞもぞ。

《◆正面やや下/10cm 主人公の胸に抱きつく》

シズク 1019 「ん……はあ……ふう……はあ……はあ……ん、はあ」

シズク 1020 「あ、交尾どうしよっか」

シズク 1021 「んー……無理しなくても大丈夫だよ。ご主人、今日いっぱい出しちゃったし」

シズク 1022 「ほら、マンネリにも気を付けないと。えへへ」

シズク 1023 「ん、したくないってわけじゃないよ?」

シズク 1024 「んー……したい……したい、けど……家じゃないし……夜中だし……あまり声出したら、迷惑かも」

シズク 1025 「……宿のお布団も、濡れちゃうと思っし」

シズク 1026 「だから、今日は我慢してみる。家に帰るまで、我慢」
シズク 1027 「ん、私だって我慢出来るよー？」

シズク 1028 「ご主人にダメって言われたら、大好きなツナクリームも我慢出来るし」

シズク 1029 「ご主人と交尾するのも……我慢出来るもん」

シズク 1030 「私はそんな、えっちな猫じゃないですよーだ♪
くす♪」

シズク 1031 「ほら、寝ちやお？ 朝になったら、スッキリしてるはず」

シズク 1032 「うん。おやすみ、ご主人」

しばし寝息。

(20秒。寝息。でも眠れなさそうな様子)

シズク 1033 「すー……すー……ん……はあ……はあ……」

(★20秒)」

シズク 1034 「んー」

主人公、シズクの様子が気になって見る。

シズク 1035 「あ、起こしちゃった？」

シズク 1036 「ああいや、落ち着かなくて」

シズク 1037 「ん、なでなでしてくれるの？ えへ、ありがとう」

シズク 1038 「そしたら、眠れるかも……おねがい♪」

主人公が優しくシズクを撫でる。

最初は心地よさそうなシズクだが、だんだん甘い声が目立ってくる。

(15秒。寝息。撫でられて心地よさそうな声)

シズク 1039 「ん……う……ん……ふう (★15秒)」

(20秒。寝息。甘い声に変わる)

シズク 1040 「はあ……あ……ん……はあ、ん (★20秒)」

シズク 1041 「ご主人……指……指もちょうだい？」

シズク、口を開けて指をおねだり。

シズク 1042 「あー♪ あー……あゝ……あむ♪」

舐め方が妙にいつもより色気づいている。

(30秒。指ちゅぱ。明らかに発情している感)

シズク 1043 「んちゅ……ん、ちゅぷ……れる、れえる (★30秒)」

《◆右耳やや下/10cm 首筋へ》

シズク 1044 「はあ……はあ……くんくん……くんくん」

シズク 1045 「あ、私の匂い、ちゃんと残ってる♪」

《◆左耳やや下/10cm 首筋を移動しながら》

シズク 1046 「くんくん……くんくんくん」

シズク 1047 「えへへ、いっぱいマーキングしたもんね♪」

シズク、そのまま首筋をゆっくり舐める。

シズク 1048 「ん、ちゅ♪ あむ、ちゅ……れえる、れる……れろれ

る……ちゅ、ちゅぱ……れえるれる……れる、ちゅ」

シズク 1049 「んぷぷ……」っしゅじーん♪」

シズク 1050 「ああむ……れえる、れえる、れろれる……ちゅ、れ

る……はむ、ちゅ……れるれる……れえろ」

《◆右耳やや下/100 首筋を移動しながら》

シズク 1051 「えへ、呼んでみただけー♪」

シズク 1052 「ああむ♪ れえるれる、ちゅ、れえろ……れる、れる……ちゅ、ちゅ……ちゅー……れるれるれる」

シズク 1053 「ん、汗かいてる」

シズク 1054 「はあむ……れえる、れる、れろ……ちゅ、ちゅ……れえる、れるれる、れえる……あむ、れろれろ、れえる」

《◆右耳/00 移動しながら》

シズク 1055 「ちゅぱ……はあ……はあ……」

シズク 1056 「ん、あとちょっとだけ……ちよっただけしたら、落ち着くから……はあ……はあ……」

シズク、有無を言わず、耳を舐める。

(30秒。耳舐め。ゆっくり、でも興奮気味に、

吐息が多く混じるような舐め)

シズク 1057 「れえる、れえる、れえろ……はあ、れる、れろ

(★30秒)」

シズク、主人公の股間をまさぐる。

シズク 1058 「んー？ んふふ♪ れる、れる♪ えへ、硬あい♪」

シズク 1059 「れえる、れえろ♪ どうしたのー？ はあ、浴衣の中、膨らんでるー♪」

シズク 1060 「れるれるれる……ちゅ、れる……はあむ、れるれる」

シズク 1061 「くす♪ ダメだよー？ ご主人も、がーまーん♪」

(30秒。耳舐め続き。主人公の反応を見て楽しんでに微笑んだり)

シズク 1062 「はあ、れえる、れろ(★30秒)」

シズク 1063 「くす♪ まあ、ご主人がどうしてもって言うなら、して
もいっしょっ。どーするっ。」

シズク 1064 「え、しなっ？」

シズク 1065 「え、ほんとに？ え、え、家まで、我慢？」

困った様子。

シズク 1066 「うう……」

シズク 1067 「しよお？ しよーよお」

シズク 1068 「ごめんね？ やっぱり、我慢出来ない」

シズク 1069 「ご主人と、交尾……エッチ……エッチしたい」

シズク 1070 「おねがい……エッチしよお？」

耳舐めしながら誘惑。

シズク 1071 「ん……するって言うってくれるまで……はあむ♪」

シズク 1072 「れる、れる、れる……ちゅ、れえる、れる」

シズク 1073 「しよお？ れえる、れる、れる……このおちんちんも、

はあ、気持ちよくなるよっ。 れえる、れるれる、ちゅぱ」

シズク 1074 「私の中に、種付け♪、びゅー♪、びゅーびゅーびゅー♪

びゅっびゅ♪、びゅっびゅー♪、えへへ♪、したいで

っちっ。」

シズク 1075 「れえる、れるれる、れえる……♪」

シズク 1076 「ね？ エッチしよ♪」

シズク 1077 「する？ えへへ♪、うん♪、っよ♪」

《◆正面/10cm》

シズク 1078 「はあ……でも、しーっだよね。夜中だから、しーっ♪」

《◆左耳/10cm》

シズク 1079 「ご主人、浴衣、脱がしてほしいなっ♪」

シズク 1080 「ご主人がきつく締めたから、自分じゃほどけない
よお……おねがはい」

主人公、シズクの浴衣の帯をほどいていく。

シズク 1081 「ん……ん……はあ……ん……えへへ……はあ……あ……
はあ……くすっ……はあ」

《◆左耳/0cm 不意打ち耳舐め》

シズク 1082 「ああむ♪ れえる、れえる、れるれる♪ ちゅ♪」

シズク 1083 「えへへ、私もご主人の脱がすー♪」

お互いに浴衣を脱がしていく。

(30秒。脱ぎあいつこ。楽しそうに耳舐め)

シズク 1084 「れえる、れるる♪ ん♪ ちゅー、ちゅぱ♪ くす♪
(★30秒)」

シズク 1085 「もう脱がせたよー♪ えへへ、私の勝ちー♪」

シズク 1086 「早くしないとー、交尾出来ないぞー♪」

シズク 1087 「くす♪ れえる、れえるれる、れるれる、れるれる♪」

シズク 1088 「早くう♪ 早くう♪ れえろ、れるれる♪」

シズク 1089 「おちんちんなでなでしてー、待ってるぞー♪」

シズク 1090 「れえるれる、れるれる♪ はあむ、ちゅ、れるれる♪
はあ、れえる、れえる、れるれる♪」

シズク 1091 「あ、ほどけた？ ありがとう♪」

シズク 1092 「じゃあ、そのまま脱がして……?」

シズク、浴衣をゆっくり脱がされる。

《◆正面/0cm 移動しながら》

シズク 1093 「はあ……ん……はあ……ふう……ん……はあ」

自然と口づけをする二人。

シズク 1094 「ちゅ……ちゅ……はあ、ちゅ♪」

シズク 1095 「ご主人もすごいドキドキしてるね」

シズク 1096 「ちゅ……んちゅ」

シズク 1097 「うん……裸でぎゅーってしてると、よく分かるよ？」

シズク 1098 「ちゅ……汗もかいてるし」

シズク 1099 「ちゅぷ、ちゅ……くす♪ 私のお腹に、ちゅ、おちんちんがぐいぐい当たってる……はあ、れる、ちゅ」

シズク 1100 「ご主人も、発情してるんだね♪ ちゅ、ちゅっちゅ」

《◆正面/10cm》

シズク 1101 「はあ……私もね……ずっと、あそこが寂しいの」

シズク 1102 「ふう……奥が、ウズウズしてて……ん……指だと、届かなくて」

シズク 1103 「えへへ……うん♪ さっき試しちゃった」

シズク 1104 「自分の指で、あそこ、イジっちゃった♪」

シズク 1105 「でも……届かないの」

シズク 1106 「はあ……ご主人のおちんちんで、一番奥、いい子いい子してくれないと、だめなの……♪」

シズク、質問しながら、挿入。

シズク 1107 「はあ、はあ……入れていい？ はんっ♪ ん、はあ♪ はうっ♪」

シズク 1108 「えへへ、ごめん、もう入っちゃう……う、はあ♪ 奥まで、ん♪ 全部、入っちゃ、あっ、はあ♪ あ、ああ♪ あっ、はうっ♪ はあ、はあ」

シズク 1109 「えへ、そうだったね……声は我慢……ふう」

シズクニ10 「ゆっくり……ゆっくり、動かすね？」

シズク、腰をゆっくり上下。

声は我慢あまり出来ていない様子。

シズクニ11 「ん……ん……はあ、ん……んっ……んあ……あ……

ふう……はあ♪ ん♪ はあ……あっ♪ ん……あ♪「

シズクニ12 「ゆっくりでも、んっ♪ 奥、当たって……はあ……す

っ」……きもちい……はあ……きもちいよお……♪「

シズクニ13 「あっ……ん……ん♪ ん、ん……はあ……んっ♪「

シズクニ14 「我慢、無理だよお……んっ♪ これ、んっ♪ 声、出

ちや、はう♪ ん、んっ♪「

シズク、キスをおねだり。

シズクニ15 「じしゅ、じーん♪ ちゅー♪ ちゅ〜♪「

◆◆正面/0cm◆◆（喘ぎながらキス）

シズクニ16 「んっ……んっ……はむ、ちゅ……れる、んっ……んっ♪

はあ、んっ♪ ちゅ、れる、れる、んっ♪ ん、んっ♪

ちゅ、ちゅ♪ ん、ちゅ、れえる、れる……んっ♪「

主人公、シズクの腰を強く抱きしめる。

シズクニ17 「あっ♪ それ、だめ♪ 奥、ぐりぐり、だめ♪「

シズクニ18 「あ、あああ♪ すぐ、いっっちゃ……いっく、いっく♪ は、

いっく♪ ああああ♪ はあ、はあ♪「

（絶頂しながらキス）

シズクニ19 「んー♪ ちゅ♪ んっ♪ ちゅぶ、ちゅ♪ んー♪

ちゅ、れえる、れる、ちゅ♪ ちゅー、ちゅぽっ♪「

◆◆正面やや上/10cm◆◆

シズクニ20 「はあ、はあ……今日、ダメかも……すごい敏感になって
る……はあ……すぐ、いっっちゃっ……♪「

シズクニ21 「お酒のせい？ 我慢したから？ ん、分かんない……分かんない……」「しゅじーん、優しく、して♪」

シズク、頭を撫でられて、感度が上がる。

シズクニ22 「はう、ん、あ、あっ♪ あああ♪ 優しくって、言ったけど、あっ♪ はあ♪ なでなでは、だめ♪」

シズクニ23 「あ♪ ああ♪ いっちゃ……いっちゃう♪ なでなで、だけで、んっ、は……あ、あっ♪ いく♪ いくっ♪」

シズク、体を震わせて絶頂。

シズクニ24 「んっ♪ んっ♪ ふう、んっ♪ んっ♪ あうう♪ ん、んっ♪」

シズクニ25 「はあ、はあ……ごしゅじーん……助けてえ♪」

シズク、体も喋りも、既にとろけている。

《◆正面/0cm ディープキス》

シズクニ26 「ん……ちゅ……れる、ちゅ……ん……ちゅ、れるれる」

シズクニ27 「んー♪ なでなで、きもちい♪ んく、ちゅっちゅっれるるれる、ちゅ……ちゅー♪ ちゅっちゅっ♪」

シズクニ28 「えへへ、気持ち良すぎて、腰、動かないよお♪」

シズクニ29 「んー、ちゅ♪ 私、重たくなーい？ れる、ちゅ♪」

重たくないよ。

シズクニ30 「くす♪ ほんとー？」

シズクニ31 「じゃあ、遠慮なく、ぐでーんっってするよー？」

シズクニ32 「はあむ♪ ちゅー、ちゅぶ、ちゅ……れる、ちゅ」

シズクニ33 「ご主人も、動けなくなっちゃう……朝まで、ずーっと一緒♪」

シズクニ34 「ん、ちゅ……ちゅー……ん、れえる、ちゅ……はあ」

シズクニ35 「私はあ、おちんちんが気持ちよくなる抱き枕だよお？」
シズクニ36 「ちゅ♪ えへへ♪ おちんちん、もつとちよーだい♪
「主人♪ ん、ちゅ♪」

シズクニ37 「ん、はあ♪ また、ぐりぐりっ♪ はっ、うあ♪
あっ♪ 「しゅじ、あっ♪ いく……いく、いく……それ
いく♪ あああ♪ は、あああ♪ あうう♪」

シズクニ38 「ふう……はあ……はあ」

《◆右耳/0cm》

シズクニ39 「はあ……ご主人も、気持ちよくなってよお♪ ああー
む」

(30秒。責め立てる耳舐め。喘ぎ混じり)

シズクニ40 「れるれるれる……ん♪ れえろ、れる、ちゅぱ♪

(★30秒)「

シズクニ41 「はあ、一緒に、猫になる？ ああむ♪」

(40秒。鳴きながら耳舐め)

シズクニ42 「れえる、れるれる、れるれる♪ みゃあ♪ みゃあ、あ
む♪ れるれるれる♪ みゃあ、れえる、れる♪

(★40秒)「

シズク、耳舐めの途中で絶頂。

シズクニ43 「ん、あ……いく……また、いっちやう……は、んっ♪
ん、んっ♪ はあ、んっ、んっ、んっ♪」

シズクニ44 「はあ……はあ……」

《◆左耳/0cm》

シズクニ45 「はあ……いくたびに、あそこ、きゅっっってなって……

おちんちんの形、すっっ分かる♪」

シズク 1146 「うん……硬いところも……先っぱの膨らんだところも♪
「ご主人の……おちん、ち……全部……きもちい……はっ、
んっ……また、いく……いく、あっ♪」

シズク 1147 「はあ♪ んっ♪ んっ♪ ああ……はあ、はあ……ん、
はあ……♪」

シズク 1148 「ねえ、ご主人……お願いが、あるの」

シズク 1149 「はあ……私に、種付け、して？」

シズク 1150 「このまま、おちんちん、一番奥に、くっ付けたまま♪」

シズク 1151 「もうそこから、おちんちん、離しちゃダメ♪」

シズク 1152 「そのまま、びゅーっびゅーって、するの♪」

シズク 1153 「ご主人の子種、ちょうだい♪ いっぱいちょうだい♪
おねがぁい♪」

ぐりぐり。【ろれつが回らなくなっていく】

シズク 1154 「あ、あんっ♪ ぐりぐり、きたあ♪ あ、あっ♪ 奥♪
奥ぐりぐり♪ いっぱいぐりぐり♪ ずっとして♪ ずっ
と♪」

シズク 1155 「はう、あ、はあ♪ それ、大好き♪ はあ♪ いい子い
い子って、おちんちんなでなで、大好きい♪」

シズク、軽い絶頂を繰り返しながら主人公の耳を
舐める。

シズク 1156 「はあ、はあ♪ あむ♪」

(60秒。軽い絶頂をしながら辛うじて耳舐め)

シズク 1157 「ん、ん♪ れえる、ちゅ♪ んっ♪ れえる、れろれ
る♪ ん♪ (★60秒)」

シズクニ158 「はあ、ん……あ♪ これ、分かる♪ おちんちん膨らんでる♪ いっぱい出そうとしてる♪ 分かる♪ 分かってる♪」

シズクニ159 「はあ、大丈夫かなっ……あ、う、あそこ、ずっとキュンキュンして、とまんない♪」

シズクニ160 「これからご主人のでいっばいにされるんだって、期待しちゃってる♪」

シズクニ161 「はあ、想像して、気持ちよくなって、あ、あっ♪ いっちやう……いっちや……んっ……いく♪ んうっ♪ はあ♪ ふっ♪ ん、ん、んっ♪ はあ、はあ」

シズクニ162 「ごめん、いっちやっただ……またいっちやっただ」

シズクニ163 「ごめんね？ えっちな猫で、ごめんね？ ご主人」

《◆正面/10cm 向かい合っ》

シズクニ164 「はあ……うん♪ すき♪ ご主人、すき、すきい♪」

シズクニ165 「はあ、かっこいいご主人も、優しいご主人も、ん♪ えっちなご主人もお……はあ、全部……ぜんぶ……だいじゅきい♪」

(『んみゃ〜あ』高く甘えた鳴き声)

シズクニ166 「んみゃ〜あ♪」

腰の揺らしが激しくなり、ラストスパート。

シズクニ167 「はあ、ん、んっ♪ はあ♪ ぐりぐり、激し♪ あ、あ、あんっ♪ これ、いっぱい出されちゃう♪ 種付けされちゃう♪ はあ、はあ♪」

シズクニ168 「ちゅー♪ ご主人、ちゅー♪」

《◆正面/0cm いっぱい喘ぎながらキス》

シズクニ69 「んー、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ、れる、ちゅ♪ ん、んっ♪
ちゅ、れるれる♪ はあ、んっ♪ れえる、れる、れる♪
ん、ん、んっ♪ はあ、んちゅ♪ ちゅ、れる、れるれ
る♪ んー♪ ちゅぷ、ちゅっちゅ♪ ん、ん♪ れえる、
ちゅ♪」

射精へ。

《◆正面/10cm》

シズクニ70 「こ主人♪ 一緒♪ 一緒がいい♪ ん、ん、はあ♪
一緒にいっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、い
っ♪……いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪」

大きな絶頂。

シズクニ71 「あああああ♪」

シズク、体を震わしながら、目をチカチカさせる。

シズクニ72 「はっ……あ……ああ……はっ……はっ……ん、はあ……
はあ……はあ……はあ……はあ……ぶっ♪」

《◆正面/0cm 優しいキス》

シズクニ73 「ん……ちゅ……ちゅー……ちゅ」

シズクニ74 「にっしゅじーん……はあ」

シズクニ75 「ちゅ……ん、ちゅ……ちゅー……ちゅっちゅ」

シズクニ76 「えへへ……すごかったあ」

シズクニ77 「うん……私、いっぱいっちやった……はあ……またた
び、ダメだね……んちゅ……これ、ほんと変になっちゃう
かも」

シズクニ78 「はあ……ん、ちゅ……ちゅー……ちゅ、ちゅ」

シズクニ79 「でも、たまにならいいかも……えへへ……ん、ちゅ」

シズク 1180 「ご主人のおちんちんが、元気な時に……またたびエツ
子……またしようねー」

シズク 1181 「ん、ちゅ……ちゅ、ちゅ……ちゅー……んちゅ……

はあ……ちゅ……ちゅっちゅ……ん、ちゅ」

シズク 1182 「あ……くす♪ おちんちん抜けちゃった」

シズク 1183 「ちゅ……ん、ちゅ……はあ、ちゅ……ちゅー」

シズク 1184 「お布団の中、ちゅ、絶対びしょびしょだよね……ちゅ」

シズク 1185 「えへへ♪ しーらない♪ ちゅ……ちゅっちゅ♪」

シズク 1186 「ん♪ ちゅ……ちゅっちゅ……ん……ちゅ」

シズク 1187 「そろそろ降りる?」

シズク 1188 「ん、乗ったままでいいの? 苦しくない?」

シズク 1189 「えへ、軽い軽いつて、言うねーご主人♪」

嬉しそうにキスを迫る。

シズク 1190 「んー♪ ちゅ♪ ちゅっちゅ♪ んふふ♪ ん♪

ちゅっちゅ♪ ちゅー♪ ちゅ♪」

シズク 1191 「じゃあ、このままぎゅーっして寝るー♪」

《◆右耳/0cm 抱きつく》

シズク 1192 「ぎゅーーん♪」

シズク 1193 「えへへ、あったかいでしょ♪ 猫は、あったかいんだ
ぞーん♪」

シズク 1194 「このまま私を、お布団にしてもいいよ?」

シズク 1195 「ぎゅっんんん♪」

ほっぺキス。

シズク 1196 「ん……ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ、ちゅ♪ はあ、ちゅ♪」

シズク 1197 「あ、んめんね。ちゅーしてたら寝れないよね」

シズクニ98 「んー、我慢っ……がーまーんー」

シズクニ99 「（呼吸）……（呼吸）……」

シズクニ200 「ちゅ……ちゅ……えへへ……ちゅっちゅ……ちゅ……

ちゅ、ちゅ……ちゅー……ちゅっちゅ♪」

シズクニ201 「ちゅー……ちゅっちゅ……はあ……ちゅ……ちゅー……

ちゅっちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ、ちゅ……ちゅ」

（フェードアウト）

（09-END 4741文字 305秒）

小鳥のさえずり。いつもと違う部屋で迎える朝。

シズクは一足先に起きて、荷物をまとめている。

《◆正面/50cm》

シズク 1202 「ん、しょ……忘れ物無いかな」

シズク 1203 「ん……あ、パンツ……干したんだった」

シズク 1204 「これで全部かな……よし、準備おっけー」

主人公の元へ歩く。

《◆正面/10cm》【「」から小声】

シズク 1205 「あとはー、ご主人を起こすだけー♪ くす♪」

《◆左耳/0cm 優しく耳舐め》

シズク 1206 「おーきーて♪ はあむ♪ れえる、れる、れる……ちゅぽ♪」

シズク 1207 「えへへ♪ おはよーご主人♪」

シズク 1208 「れえる、れる、れる……ちゅぽ♪ こっやって、優しく舐めればー、れえる、れる♪ ビックリしないでしょっ？」

シズク 1209 「あむ♪ れえる、れる、れる♪」

シズク 1210 「でも、あんまりこっやってたら、元気になっちゃうかな……ちゅ、れえる、れる♪」

シズク 1211 「んぷぷ♪ 家帰ってからねっ？」

《◆正面/10cm》【「」から普通の音】

シズク 1212 「そっついえはさつきね、ペランダに猫さんがいたよっ？」

シズク 1213 「うん、昨日と同じ猫さん」

シズク 1214 「いっぱいお話したー♪」

シズク 1215 「昨日はごめんねーって話とー……えへへ、他の話もしたー♪」

どんな話？

シズク 1216 「えー？ どんな話かは、秘密♪」

シズク 1217 「女の子同士だよ？ ぷらっぱしーがあるからねっ」

シズク 1218 「私は口が堅いのだー♪」

ツナクリーム。

シズク 1219 「え、今ツナクリームって言った？」

シズク 1220 「こしゅじーん？ 食べ物で釣るのは、悪いことだと思うなあ」

シズク 1221 「……じゃあ、ここだけの話なんだけど」

シズク 1222 「昨日お風呂入ってた時、猫さん追い払っちゃったでしゅー。」

シズク 1223 「あの後猫さん、仲間を呼んで戻ってたんだって」

シズク 1224 「うん。入口のほうで、ずっと覗いてたらしいよ？」

シズク 1225 「でも、その時私たちがしてたのって、ほら……ねえ？」

シズク 1226 「えへへ……猫さん達、けっこう興味津々みたいで、『何してたのー？』っていっぱい聞かれちゃってさ」

シズク 1227 「んまあ、猫さん達も将来人間になるかもしれないし？ 意味くらいは教えてもいいかなーって思っ……色々教えちゃった」

シズク 1228 「そしたらどんどん話はずんじやって……どんどん濃厚になっ……エッチな話をいっぱいして……今に至りまーす……」

……。

シズク 1229 「んあ、そんな目で見ないでよお」

シズク 1230 「しょうがないじゃん。みんなから褒められたら、応える
しかないでしょ〜。」

シズク 1231 「『師匠！ 師匠！』って呼ばれ始めちゃって、実質この
宿は私の縄張りだよー！」

もしかして昨日のことも。

シズク 1232 「え？ 昨日の交尾？」

シズク 1233 「やや、話してないよー？ 話してない」

(小声)

シズク 1234 「ぐりぐりが良かったとか、話してない、うん」

シズク 1235 「そうだ！ こんな話するために起こしたんじゃない！

」主人、そろそろ出る時間だよ？」

主人公、飛び起きる。

《◆正面/30cm》

シズク 1236 「あはは♪ ご主人は寝すぎだよ〜」

シズク 1237 「もう帰る支度済ませたから、着替えちやってー」

済ませたの？

シズク 1238 「うん。ご主人の荷物はそこー。で、着替えはこれー。は
っ〜」

主人公、服を受け取って着替える。

シャツのボタンをパチン、パチン。

シズク 1239 「ん？ いいのいいの♪ 旅行で癒してもらった分、今日
は私が頑張るから♪ えへへ、お返ししなきゃね♪」

《◆左耳/003 移動しながら》

シズク 1240 「それにー……」

【「」から囁き】

シズク 1241 「お腹の中、まだあったかいよ♪」

シズク 1242 「昨日はいっぱい頑張ってくれて、ありがとう♪」
主
人♪」

【「」まで囁き】

《◆正面/30cm》

シズク 1243 「くす♪ さ、帰る帰る♪ いつもどおり、ご飯作らない
と♪」

二人、荷物を持って準備。

シズク 1244 「今日は何作ろっかなー」

シズク 1245 「何かリクエストあるー？」

シズク 1246 「あゝ、肉じゃが♪ そういえば言ってたねー♪」

シズク 1247 「じゃあ、帰りにスーパー寄らなきゃ……ちよつど今日安
いかもー」

シズク 1248 「あーあと、ツナクリームも買わないとね♪ えへ
く♪」

(フェードアウト)

(10-END 1066文字)

《◆左耳/0c11 耳舐めで起す》

シズクアラームその1『いつもどおり』

シズク 1249 「はあーむ♪ れえる、れる、ちゅぱ♪」

シズク 1250 「起きた？ えへへ♪」

シズク 1251 「今日も一日、いつもどおり、よろしくね♪ ご主人♪」

シズクアラームその2『元気が無い時』

シズク 1252 「ああーむ♪ れる、れる、ちゅぱ♪」

シズク 1253 「おはよ♪ ん、ご主人、元気無いね。大丈夫？」

シズク 1254 「ちゅ♪ これで元気になるかな？」

シズク 1255 「もっと？ ちゅ、ちゅ、ちゅ♪ くす♪ 元気出た？」

シズクアラームその3『元気がある時』

シズク 1256 「はあーむ♪ れえる、れるれる、ちゅぱ♪」

シズク 1257 「おはよーご主人♪ お、朝から元気いっぱいだね♪」

シズク 1258 「さすが私のオス♪ かつこいいぞー♪」

シズク 1259 「今日も一日、思いっきり頑張ってるね♪」

シズクアラームその4『！？？！？！』

シズク 1260 「ああーむ♪ れえる、れえる、ちゅー、ちゅぱ♪」

シズク 1261 「おっはよ、ご主人♪ えっちしよ♪」

(11-END 230文字)

12.

リヤホセの様フリーストーク

(ALL-END 29410 女中 マユニハ 1345 巻)